

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No263

(新著の紹介)

高校教師のための「探究学習」ガイドブック
—生徒が自走する「持続可能な探究」とは?—
上山晋平 ([広島県] 福山市立福山中・高等学校教諭)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



上山晋平
かみやま しんぺい

(広島県) 福山市立福山中・高等学校 教諭
研究企画主任 (探究・ESD担当) ・外国語科 (英語科)

家庭学習



テスト作り



AL



技能統合



スピーキング



ライティング



リテリング



トリディス

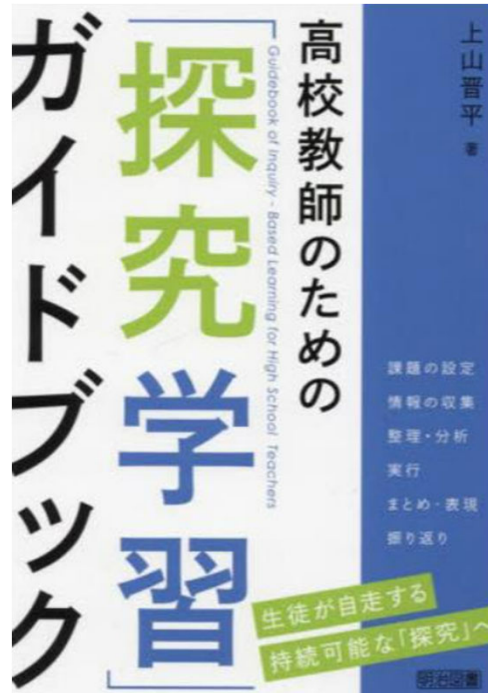


授業づくり



学級担任





上山晋平 (著) 『高校教師のための「探究学習」ガイドブック』 明治図書出版 (2024年1月刊行)

■1章 探究学習ガイダンス

- 1 「探究」とは？—生徒を主体とした学びの新しい形
- 2 探究学習はなんのため？—目的と目標
- 3 探究学習の特徴とキーワードは？
- 4 学習プロセス上の探究の位置づけは？
- 5 探究プロセスの進め方のイメージは？

■2章 探究学習のデザイン

- 1 探究の内容・カリキュラムの作り方
- 2 探究学習の条件とガイドラインの検討
- 3 探究テーマ・課題の設定
- 4 探究のレベルとバランスの決定

■3章 探究プロセス別のチェックリスト

- 1 探究プロセスとは？
- 2 「課題の設定」の「チェックリスト」
- 3 「情報の収集」の「チェックリスト」
- 4 「整理・分析」の「チェックリスト」
- 5 「課題解決策の実行」の「チェックリスト」
- 6 「まとめ・表現」の「チェックリスト」
- 7 「振り返り」の「チェックリスト」

■4章 「課題の設定」の指導のポイント

- 1 「課題の設定」のポイント
- 2 「課題の設定」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]「問題」と「課題」の違いは？
- 4 [指導事例②]問いの「種類」から「具体的な問い」をどう設定？
- 5 [指導事例③]課題の設定のサポート方法は？

■5章 「情報の収集」の指導のポイント

- 1 「情報の収集」のポイント
- 2 「情報の収集」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]「一次資料」と「二次資料」の違いとは？
- 4 [指導事例②]「フィールドワーク」(現地調査) 成功のポイントは？
- 5 [指導事例③]「インタビュー」の効果的な準備とは？

■6章 「整理・分析」の指導のポイント

- 1 「整理・分析」のポイント
- 2 「整理・分析」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]思考ツール、使いこなせていますか？
- 4 [指導事例②]「浅い考察」と「深い考察」の違いとは？

■7章 「課題解決策の実行」の指導のポイント

- 1 「課題解決策の実行」のポイント
- 2 「課題解決策の実行」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]課題解決策の実行をどう促すか？

■8章 「まとめ・表現」の指導のポイント

- 1 「まとめ・表現」のポイント
- 2 「まとめ・表現」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]本番発表前に全体の底上げをするには？ (スライド内容)
- 4 [指導事例②]本番発表前に全体の底上げをするには？ (発表方法)
- 5 [指導事例③]校内発表後、次のステップは？ (企業発表+全校発表まで)



それではご覧ください



高校教師のための 「探究学習」ガイドブック ～生徒が自走する「持続可能な探究」とは？～



(広島県) 福山市立福山中・高等学校
上山晋平 (かみやま しんぺい)!

自己紹介(上山 晋平) ① 関心も含めて

【1 所属】 公立中高一貫校 英語教員

【2 役職】 研究企画主任(教育研究:探究、ESD、研修)



生徒作成

【3 執筆】 英語教員・学級担任対象書籍

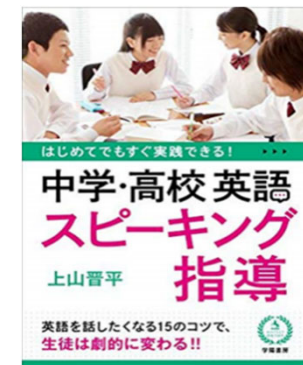
家庭学習

テスト作り

AL

技能統合

スピーキング



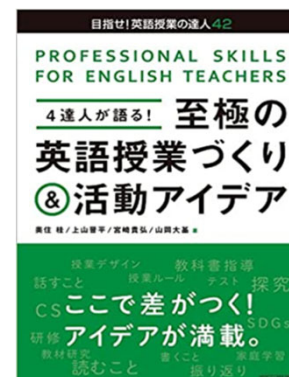
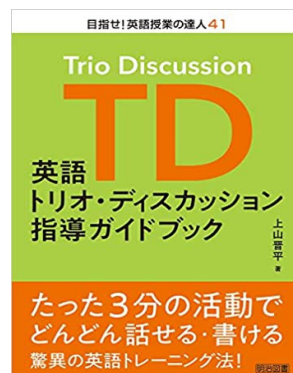
ライティング

リテリング

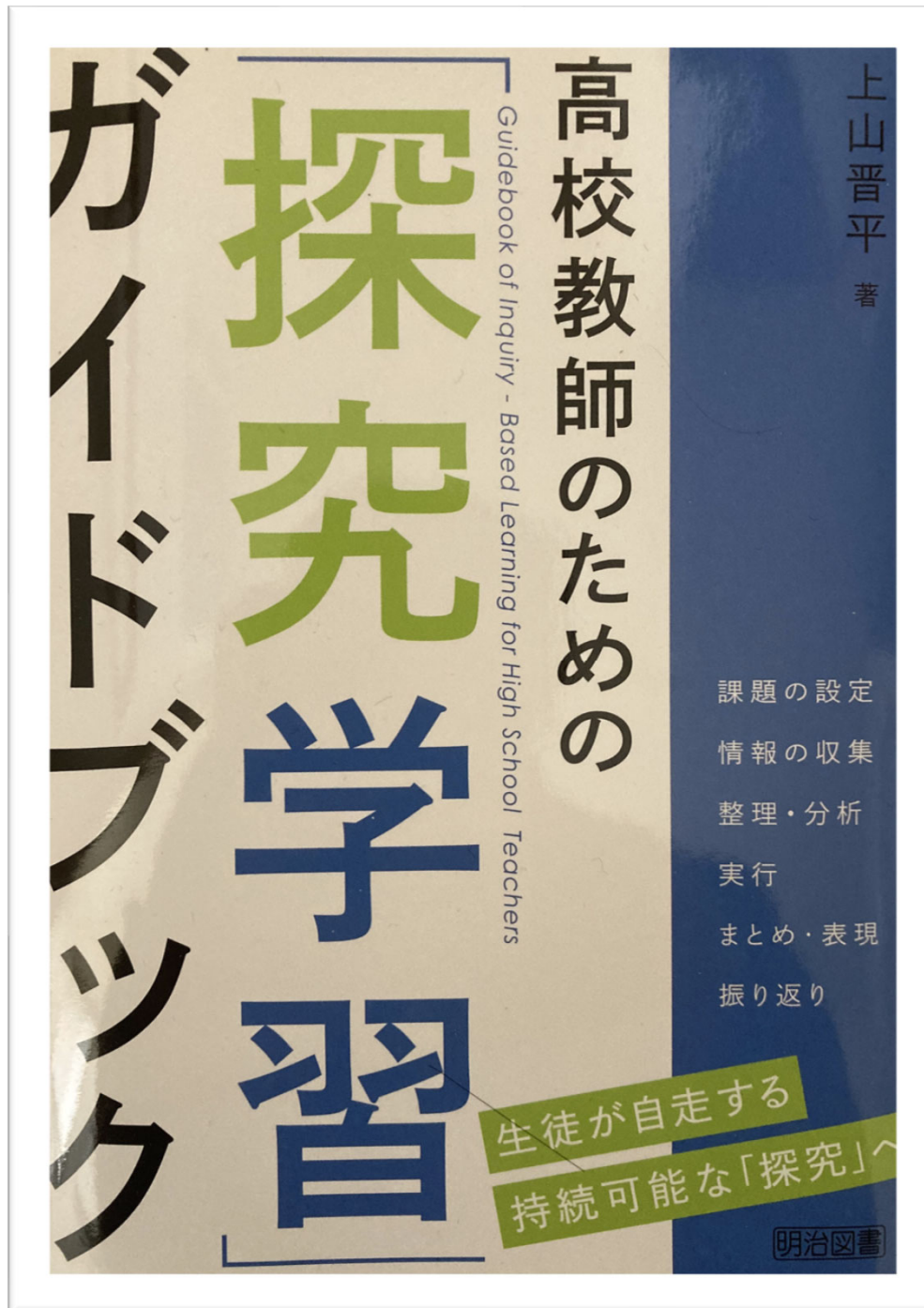
トリディス

授業づくり

学級担任



高校教師のための「探究学習」ガイドブック



生徒が自走する持続可能な「探究」へ

生徒を主体とした探究学習の授業デザインから、探究のプロセス別のチェックリストや指導のポイント、アップデート法や評価まで、押さえておきたい理論と実践例をわかりやすく解説した1冊。すぐ役立つ生徒の悩みごとの乗り越え方、課題設定シートなどの実物資料も満載！

自己紹介(上山 晋平) ② 関心を含めて

【4 英語】 外務省米国交流事業、全英連、**中学英語教科書編集委員**(光村)

【5 ESD】 文科省「ESDの手引」改訂 有識者

ユネスコ(バンコク) Happy Schools Project 発表

ACCU:SDGs教材・指導法・評価開発

ESD大賞(文部科学大臣賞)第10回(2019)

ASPUnivNet(ユネスコスクール支援大学) **評価検討委員**



ESDや探究にも関心をもって新たな教育に取り組み中

【6 探究】 **探究編集委員**(大修館探究オンライン教材アクチュアル)



*全て学校・市教委の許可のもと活動

溝上先生のスライド用（よければお使いください）

（ご紹介） （広島県）福山市立福山中・高等学校 教諭
研究企画主任（探究・ESD担当）・外国語科（英語科）



上山晋平

かみやま しんぺい

著書

【探究】

○『高校教師のための「探究学習」ガイドブック（2024年）』

【英語教育】

○『英語トリオ・ディスカッション指導ガイドブック』（2022年）

○『英語リテリング&ショート・プレゼンテーション指導ガイドブック（2022年）』*以上明治図書

○中学・高校英語ライティング指導（2020年、学陽書房）

○中学・高校英語スピーキング指導（2018年、学陽書房）

【学級担任】

『改訂版 高校教師のための学級経営365日のパーフェクトガイド』（明治図書）2022 など

○中学英語教科書編集委員（光村）

○文科省「ESDの手引」改訂 有識者

○ユネスコ（バンコク）Happy Schools Project 発表

○ESD大賞（文部科学大臣賞）第10回（2019）

○ASPUnivNet（ユネスコスクール支援大学）評価検討委員

○探究編集委員（大修館探究オンライン教材アクチュアル）

探究学習の疑問点



探究学習での
悩みや疑問は？

探究学習に関する悩みや疑問（授業や研修等でのお声）

探究学習は、これまでの一斉授業とは異なる方法も多く、指導者側にも戸惑う部分があるようです。

そもそも探究学習って何？
本当はよく分かっていない



なぜ探究をしないといけないの？
意義や目的は？



生徒が課題を作れていない。どうしたらよい？

生徒の探究が進んでいない。
どんなサポートをしたらよいの？

探究は労力がかかる。
生徒が自走できる方法は？

探究の評価はどう行うの？

【探究について各教員の定義がバラバラだと？】

目的、目指す姿が異なると、活動、評価で適切な判断が困難に
→学校全体で目的や内容を言語化し、連携して計画・実施を

多くの教員の悩みは共通 そうした悩みや疑問を整理して解決する本

- ▲「探究は担当者（主任）が考えるもの。それ以外の人には**指導案通り**に」
- 「生徒の力を育むために、担当する全員の先生が持つべきスキル」

ガイドブック

探究学習

Guidebook of Inquiry - Based Learning for High School Teachers

高校教師のための

上山晋平 著

課題の設定
情報の収集
整理・分析
実行
まとめ・表現
振り返り

生徒が自主的に持続可能な「探究」へ

明治図書

- 1章 探究学習**ガイダンス**
- 2章 探究学習の**デザイン**
- 3章 探究**プロセス別のチェックリスト**
- 4章 「**課題の設定**」の指導のポイント
- 5章 「**情報の収集**」の指導のポイント
- 6章 「**整理・分析**」の指導のポイント
- 7章 「**課題解決策の実行**」の指導のポイント
- 8章 「**まとめ・表現**」の指導のポイント
- 9章 「**振り返り**」の指導のポイント
- 10章 **高度化・自律化**を目指した探究学習のアップデート
- 11章 **生徒同士&教員同士のチームワーク**のアップデート
- 12章 探究学習の**日常への応用**
- 13章 探究学習の**評価**

個々の教員が総探・教科で探究型の授業を進めるガイドブック
—各プロセスでのポイント、「困りごと」とその「乗り越え方」のノウハウ集—

探究本の目次（全13章）



①

- 1章 探究学習 **ガイダンス**
- 2章 探究学習の **デザイン**

探究学習について

②

- 3章 探究 **プロセス別のチェックリスト**
- 4章 「**課題の設定**」の指導のポイント
- 5章 「**情報の収集**」の指導のポイント
- 6章 「**整理・分析**」の指導のポイント
- 7章 「**課題解決策の実行**」の指導のポイント
- 8章 「**まとめ・表現**」の指導のポイント
- 9章 「**振り返り**」の指導のポイント

探究プロセス別の
チェックリストとポイント

③

- 10章 **高度化・自律化**を目指した探究学習のアップデート
- 11章 生徒同士&教員同士の **チームワーク**のアップデート
- 12章 探究学習の **日常への応用**

探究学習のアップデート

④

- 13章 探究学習の **評価**

探究学習の評価

■1章 探究学習ガイダンス

1 「探究」とは？—生徒を主体とした学びの新しい形

2 探究学習はなんのため？—目的と目標

- 3 探究学習の特徴とキーワードは？
- 4 学習プロセス上の探究の位置づけは？
- 5 探究プロセスの進め方のイメージは？

■2章 探究学習のデザイン

- 1 探究の内容・カリキュラムの作り方
- 2 探究学習の条件とガイドラインの検討
- 3 探究テーマ・課題の設定
- 4 探究のレベルとバランスの決定



■3章 探究プロセス別のチェックリスト

- 1 探究プロセスとは？
- 2 「課題の設定」の「チェックリスト」
- 3 「情報の収集」の「チェックリスト」
- 4 「整理・分析」の「チェックリスト」
- 5 「課題解決策の実行」の「チェックリスト」
- 6 「まとめ・表現」の「チェックリスト」
- 7 「振り返り」の「チェックリスト」

■4章 「課題の設定」の指導のポイント

- 1 「課題の設定」のポイント
- 2 「課題の設定」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]「問題」と「課題」の違いは？
- 4 [指導事例②]問いの「種類」から「具体的な問い」をどう設定？
- 5 [指導事例③]課題の設定のサポート方法は？

■5章 「情報の収集」の指導のポイント

- 1 「情報の収集」のポイント
- 2 「情報の収集」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]「一次資料」と「二次資料」の違いとは？
- 4 [指導事例②]「フィールドワーク」(現地調査)成功のポイントは？
- 5 [指導事例③]「インタビュー」の効果的な準備とは？

■6章 「整理・分析」の指導のポイント

- 1 「整理・分析」のポイント
- 2 「整理・分析」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]思考ツール, 使いこなせていますか？
- 4 [指導事例②]「浅い考察」と「深い考察」の違いとは？

■7章 「課題解決策の実行」の指導のポイント

- 1 「課題解決策の実行」のポイント
- 2 「課題解決策の実行」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]課題解決策の実行をどう促すか？

■8章 「まとめ・表現」の指導のポイント

- 1 「まとめ・表現」のポイント
- 2 「まとめ・表現」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]本番発表前に全体の底上げをするには？(スライド内容)
- 4 [指導事例②]本番発表前に全体の底上げをするには？(発表方法)
- 5 [指導事例③]校内発表後, 次のステップは？(企業発表+全校発表まで)

■9章 「振り返り」の指導のポイント

- 1 「振り返り」のポイント—評価を正確に行い、改善の方向性を見出す
- 2 「振り返り」で「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 [指導事例①]振り返りの授業は、どう進める？

■10章 高度化・自律化を目指した探究学習のアップデート

- 1 地域・企業と連携して「社会の創り手」を育む
- 2 解決策への飛びつきは避けよう
—問題の「本質的な原因」が鍵
- 3 社会で役立つ持続可能な解決策を考える
2つのヒント
- 4 探究を高度化・自律化するための具体例
- 5 入門期にオスズの活動—ケースメソッドで商店街の活性化問題に挑む
- 6 探究に3年間取り組んだ生徒が感じた「探究の良さ」と「課題」とは？

■11章 生徒同士&教員同士のチームワークのアップデート

- 1 グループや集団には形成過程がある
- 2 グループ形態別探究のメリット・デメリットは？
- 3 探究学習を指導する教師の悩みと克服法
- 4 同僚との協力体制の築き方
- 5 探究学習における教師の具体的な役割は？
(伴走とは？)

■12章 探究学習の日常への応用

- 1 教科で探究学習を取り入れるコツ
- 2 修学旅行もプチ探究に
(オリジナルガイドブックづくり)
- 3 身近な場面(校内や生活場面)でも課題解決を図る生徒に
- 4 探究学習と進路指導
—2つはどうリンクするのか？

■13章 探究学習の評価

- 1 「総合的な探究の時間の評価」のポイント
- 2 探究の評価マニュアル
—指導要録の記述術



本書の特徴



- ① 定義の確認で教員の目線合わせが可能
- ② 探究プロセスを捉え直す
- ③ 各プロセスで「困ること」と「乗り越え方」
- ④ 持続可能な探究を目指す
(やりすぎ、放任でなく)
- ⑤ 教科における探究
(探究学習の日常への応用)

本書の特徴



① 定義の確認で教員の目線合わせが可能

② 探

1章 (探究学習ガイダンス)

③ 各

1 「探究」とは?

— 生徒を主体とした学びの新しい形

④ 持

2 探究学習は何のため?

— 目的と目標

(や

⑤ 教

3 探究学習の特徴とキーワードは?

(探

4 学習プロセス上の探究の位置づけは?

5 探究プロセスの進め方のイメージは?



方」

Howの前にWhat？

探究学習の疑問点



探究とは何？

探究とは何か？（定義は諸説あり）

①「用意された答え」がない「問い」に対して、正しいと思われる答えを導き出す営み

（京都市立堀川高等学校の定義）

②自分（たち）なりの問いを立て、
自分（たち）なりの仕方で、
自分（たち）なりの答えにたどり着く
＝「探究型の学び」

（苫野一徳『「学校」をつくり直す』）

③「？」を作って「！」にする学び （多くの人）

探究とは何か？(上山案)

一つの正解がない問い
に対し、**試行錯誤**を
しながら、**納得できる**
解答を導き出す試み
(+さらなる課題に向かう)

「？」を作って「！」にする学び



Howの前にWhy?

探究学習の疑問点



探究学習は
何のため？（目的・目標）

説明は多様（校内で一致を）

①探究の目標（高校・学習指導要領）

第1目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

① 探究の目標（高校・学習指導要領）

第1目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。

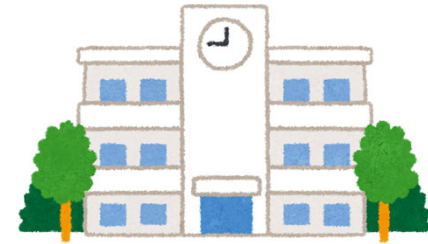
課題発見・解決力

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

現場で共有するにはシンプルさが大切

②各校で定める資質・能力を育成するため

課題発見・解決力



例)

- ①**創造力** (新たな解決方法や価値の創造)
- ②**思考力** (多面的な見方で考え、判断する)
- ③**コミュニケーション力** (意思疎通を図る)
- ④**探究心** (物事の意義・本質を探ろうとする)
- ⑤**協働性** (多様性を認め合う寛容さ)
- ⑥**チャレンジ精神** (困難に負けずに粘り強く挑戦)

「探究って何のため？」—私たちの学校で育成したい資質・能力を育てるため。

③探究 (&教育)は何のため?(目的)

これからの学校には、(中略)一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、

持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる

(出所)学習指導要領(2017)の「**前文**」 *前文=「改訂の理念」を明確にし、社会で広く共有するため

●持続可能な社会の創り手の育成

*全ての学校の教育の理念

探究に**熱心に取り組む**ことは、「持続可能な社会の創り手」として必要な**資質・能力の育成**につながり、**社会の発展に寄与**することにつながる。

例) 「**課題発見・解決力**」(社会創生には、現実の課題に対する解決策の発見と実行が必要)

例) 「**協働とコミュニケーション能力**」(多様な人との協働・連携が不可欠)

例) 「**地域との連携**」(プロジェクト等で地域社会への貢献・参加意識を育む)

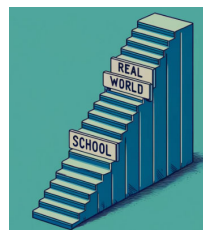
例) 「**創造性**」(新たなアイデア創出は、社会課題の解決に不可欠)

④ 社会で必要な力をつけるため (学校と社会の違いを学ぶ)

	教育機関	大人のリアル社会
① どんな課題が出るか?	指定された出題範囲から =課題は与えられる	出題範囲はない =課題を自分たちで提案する
② 誰と解くか?	一人で解く(テスト)	職場のメンバー みんなで解く
③ (課題を)解いている間は?	無言 =相談すればカンニング	コミュニケーションしまくり =相談すれば褒められる
④ 道具は?	鉛筆とケシゴム	PCを含めて何でも 使う
⑤ 分からなければ?	教えてくれる先生 がいる	フィードバックをくれる 人を自分で探す

* 学校と社会で「賢さ」が違う。

* 学校とリアル社会で「大きな段差」。



それを探究で埋める。

探究は何のため？

探究学習の目的……

持続可能な社会の創り手

人生や社会を
よりよくするための
課題発見・解決力の
育成

本書の特徴



① 定義の確認で教員の目線合わせが可能

② 探究プロセスを捉え直す

2章 (探究学習のデザイン)

- 1 探究の内容・カリキュラムの作り方
- 2 探究学習の条件とガイドラインの検討
- 3 探究テーマ・課題の設定

4 探究のレベルとバランスの決定



3章 (探究プロセス別のチェックリスト)

- 1 探究プロセスとは?
- 2 「課題の設定」の「チェックリスト」
- 3 「情報の収集」の「チェックリスト」
- 4 「整理・分析」の「チェックリスト」
- 5 「課題解決策の実行」の「チェックリスト」
- 6 「まとめ・表現」の「チェックリスト」
- 7 「振り返り」の「チェックリスト」



(探究学習の日常への応用)

探究学習の疑問点

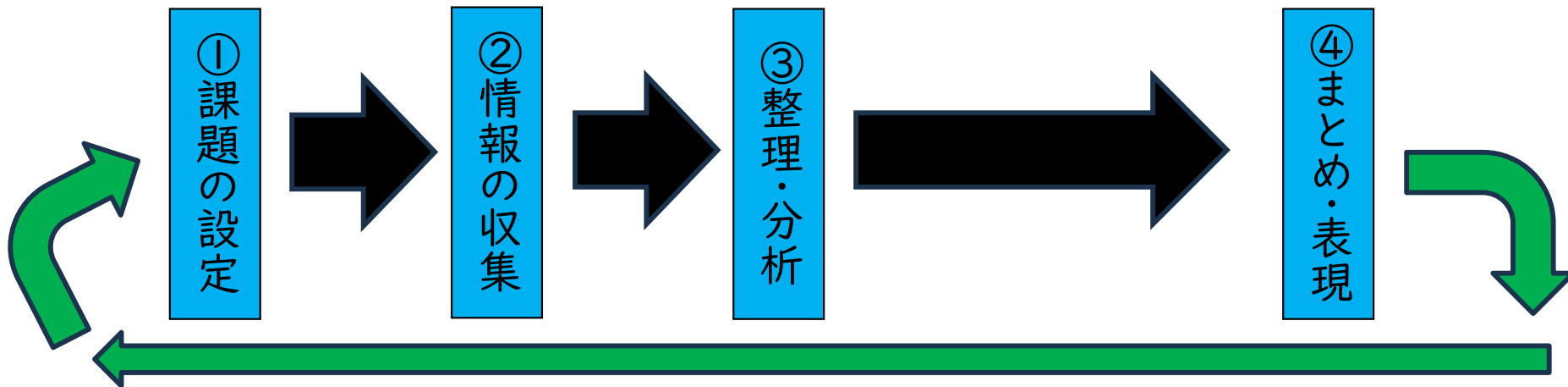


探究プロセスとは？

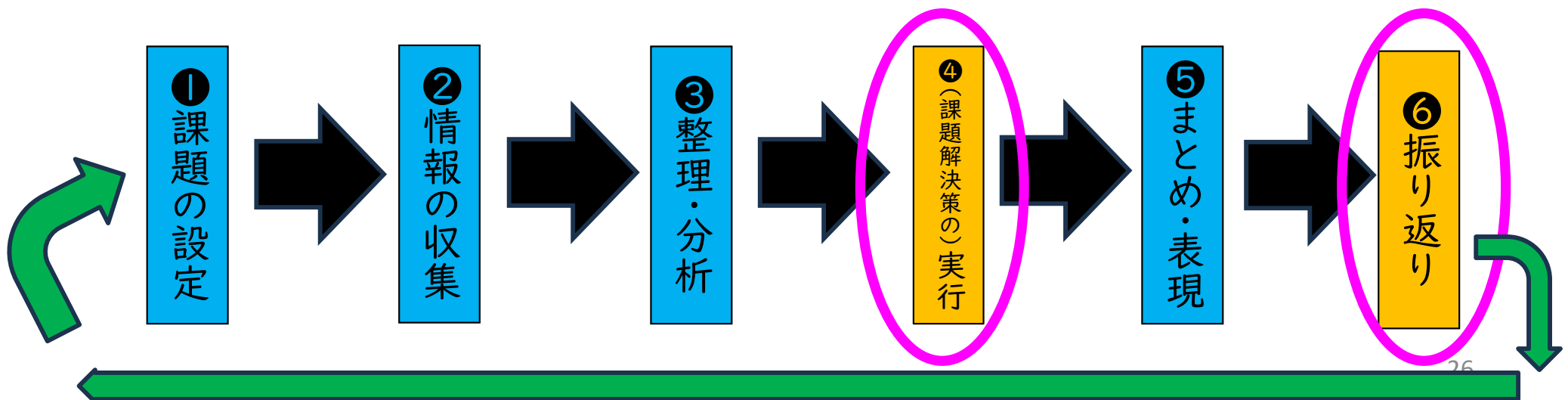
探究プロセス

探究プロセスは、様々なパターンがある。

(1) 文科省による探究プロセス(を図式化したもの)



(2) 上山(2024,p.32)の探究プロセス(課題解決策の「実行(検証)」と「振り返り」を重視したもの)



探究学習の疑問点



探究学習にもレベルが。
3つのレベルとは？

探究活動の3レベル（「調べ学習」「提案」で終わらず「実行・検証」まで）

① 調べ学習

本・ネット・フィールドワーク



○ 問題の現状や背景等を調べ、「情報収集」と「整理・分析」力が向上／
△ 提案・実践には至らない

② 課題解決の提案

・他地域モデル参照
・地域にあった解決策の提案



○ 「アイデアの提案」と「プレゼンテーションスキル」が向上／
△ 実行や成果の確認は行われない

③（課題解決策の） 実行

・地域のために
・地域とともに



○ 提案した解決策を「実行」し、困難に直面しつつも、実践的なスキルや責任感等を学ぶ／
△ 労力がかかる

本書の特徴



① 定義の確認で教員の目線合わせが可能

② 探究プロセスを捉え直す

③ 各プロセスで「困ること」と「乗り越え方」

④ 持続可
(やりす

⑤ 教科に
(探究学

探究本の目次(全13章)

1章 探究学習ガイドンス

探究学習について

2章 探究学習のデザイン

3章 探究プロセス別のチェックリスト

4章 「課題の設定」の指導のポイント

5章 「情報の収集」の指導のポイント

6章 「整理・分析」の指導のポイント

7章 「課題解決策の実行」の指導のポイント

8章 「まとめ・表現」の指導のポイント

9章 「振り返り」の指導のポイント

探究プロセス別の
チェックリストとポイント

10章 高度化・自律化を目指した探究学習のアップデート

11章 生徒同士&教員同士のチームワークのアップデート

12章 探究学習の日常への応用

探究学習のアップデート

13章 探究学習の評価

探究学習の評価



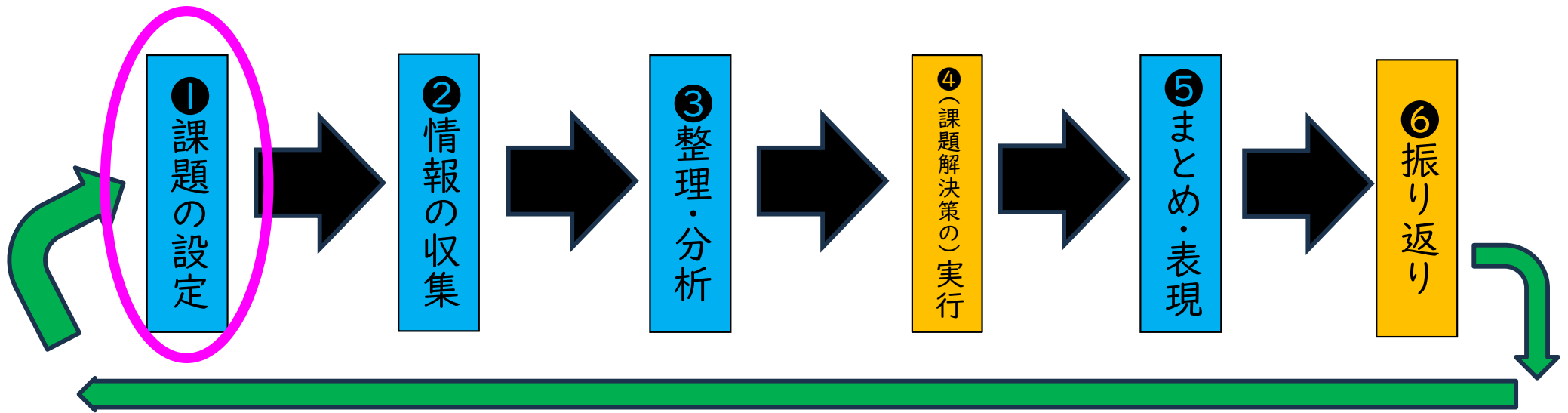
4章（「課題の設定」のポイント）

- 1 「課題の設定」のポイント
・ポイントと活動例
- 2 「課題の設定」で
「教師が困ること」と「解決テクニック」
- 3 「課題の設定」で
「生徒の悩み事」と「乗り越え方」



3年間の生徒アンケートの分析
(約400~500人)

各プロセスでのつまずき❶（課題の設定）



悩みごと(1) 課題の発見・特定

(適切な課題の発見や特定に悩む)

悩みごと(2) 進路・将来との関連付け

(進路と課題設定の関連付けに悩む)

悩みごと(3) 具体的なテーマや分野の選択

(特定のテーマや分野への絞り込みに悩む)

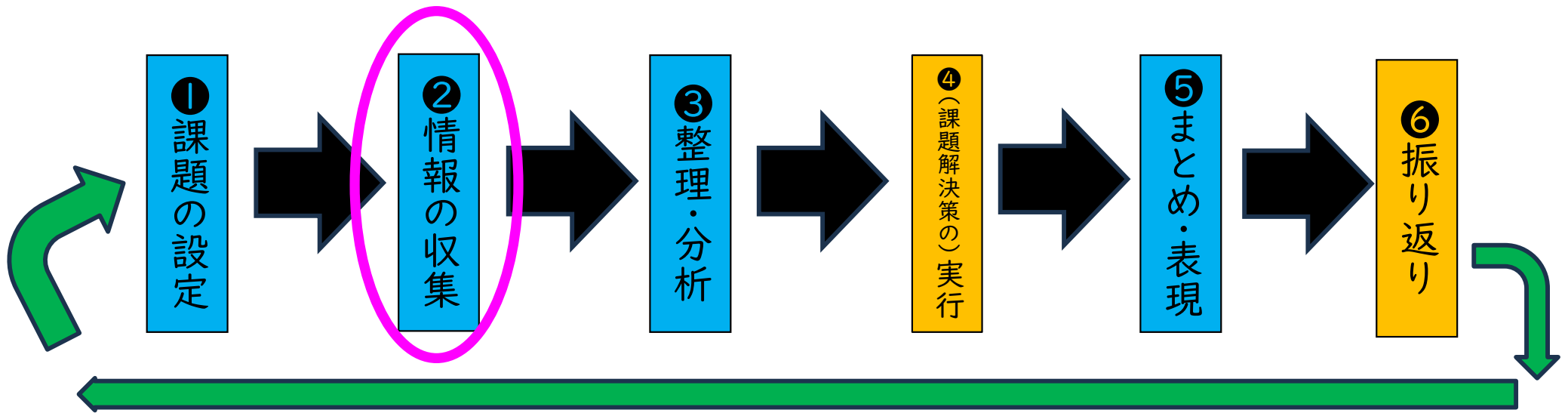
悩みごと(4) 興味・関心と課題の結びつけ

(夢や目標が不明確だと関心分野の発見が困難で悩む)

悩みごと(5) 実行可能な解決策の考案

(大規模の課題を小さくて具体的な課題にするのに悩む)

各プロセスでのつまずき②（情報の収集）



悩みごと(1) 資料不足や情報収集の困難

(資料不足で適切な情報を見つけるのに悩む)

悩みごと(2) 提案やアイデアの難しさ

(創造的な提案やアイデアを考えるのに悩む)

悩みごと(3) ネット関連の困難

(ネット情報の信頼性や正確性, アクセス制限の問題で悩む)

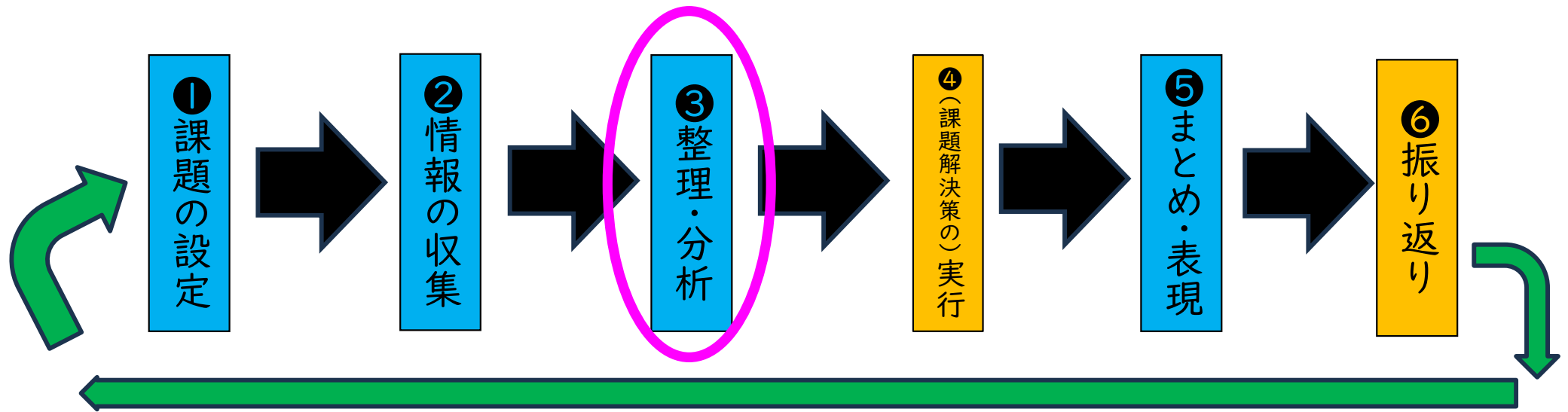
悩みごと(4) 具体的な対象への関心や知識不足

(関心が乏しい, 前提知識の不足で悩む)

悩みごと(5) インタビューやアンケートの難しさ

(情報収集で回答者の協力を得るのに悩む)

各プロセスでのつまずき③（整理・分析）



悩みごと (1) 情報の信頼性や選択の難しさ

(信頼性のある情報の発見や選択に悩む)

悩みごと (2) 目的に合ったアプローチの難しさ

(アイデアの実行や具体化に悩む)

悩みごと (3) 情報の整理とまとめ方の難しさ

(大量の情報をどう整理・取捨選択するか悩む)

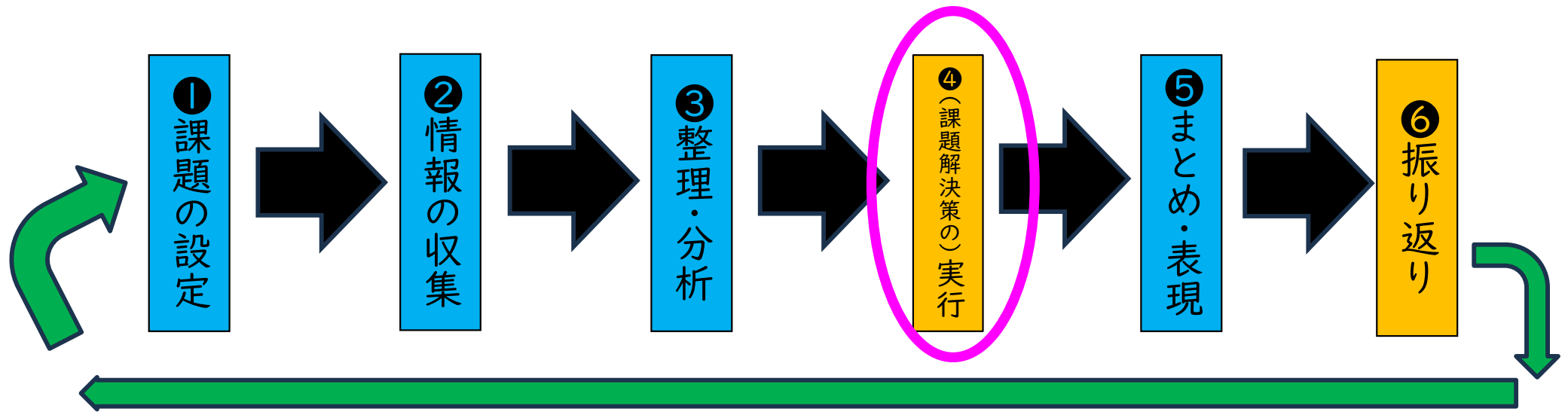
悩みごと (4) ターゲットの理解と予測の難しさ

(解決策考案のためのターゲット設定に悩む)

悩みごと (5) 提案内容の具体化の難しさ

(アイデアを具体的な計画や手順にするのに悩む)

各プロセスでのつまずき④（解決策の）実行



悩みごと(1) **実行方法の不明瞭さ**

(実際の活動や実行方法, 進め方が分からず悩む)

悩みごと(2) **成果の予測の難しさ**

(実行しても結果が予測できず, 効果がないかもしれないと不安で悩む)

悩みごと(3) **アイデアや提案の難しさ**

(適切な解決策やアイデアを考えることが難しくて悩む)

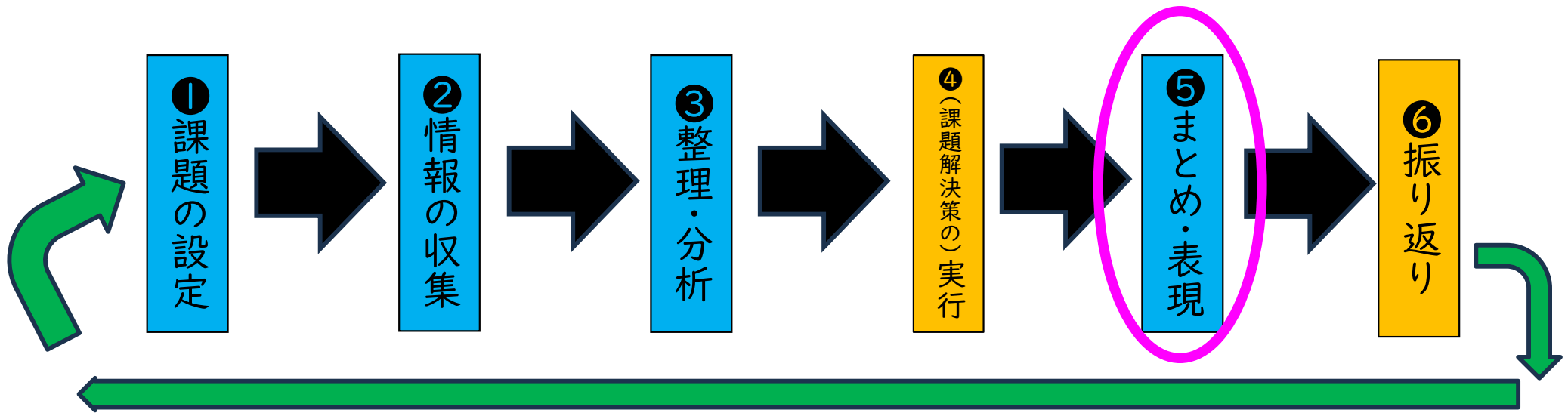
悩みごと(4) **リソースの制約**

(解決策の実行に必要な時間や費用, 材料などの資源の制約に悩む)

悩みごと(5) **実行の障壁**

(実行の際に様々な障壁があり, 乗り越える方法がわからずに悩む)

各プロセスでのつまずき⑤（まとめ・表現）



悩みごと (1) **スライドの作成とデザイン**

(スライド作成 (情報量, デザインや順序等) に悩む)

悩みごと (2) **情報の整理と統一**

(情報の整理やまとめに悩む)

悩みごと (3) **伝えたいことの明確化**

(伝えたいことをどう分かりやすく表現すれば良いかに悩む)

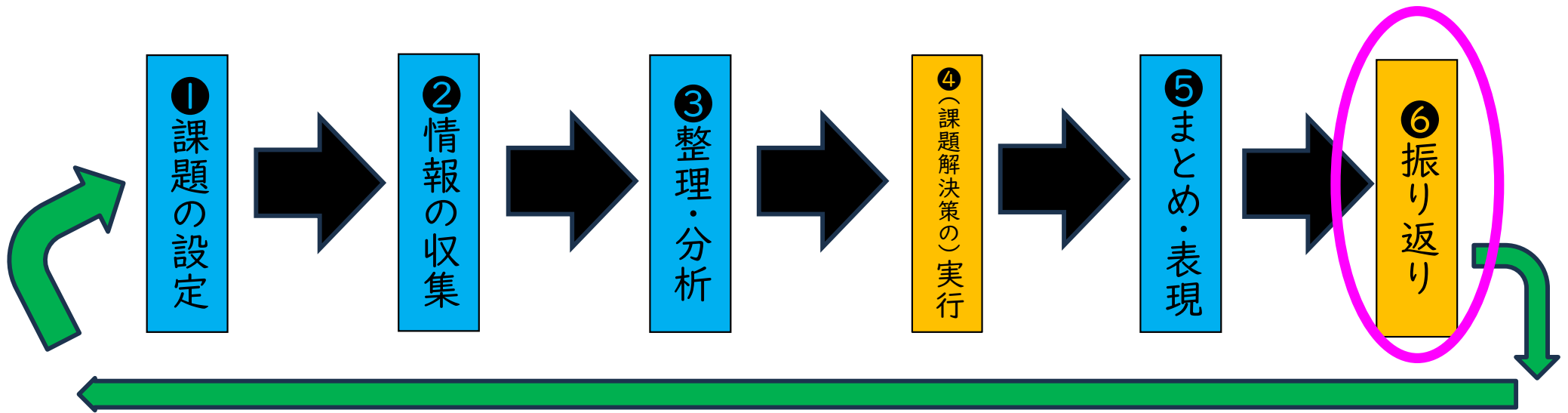
悩みごと (4) **発表や対人スキル**

(発表の緊張や人前で話すことの難しさ, グループワークに悩む)

悩みごと (5) **最終的な方向性**

(最終的にどうなればいいのか, 現実的な方向性に悩む)

各プロセスでのつまずき⑥（振り返り）



悩みごと(1) 言語化(文章化)の難しさ

(プロセスや考えを分かりやすい言葉にするのに悩む)

悩みごと(2) 新たな課題や問題点の浮上

(一つ解決すると新たな問題が生じて終わりがなく悩む)

悩みごと(3) 自分の行動や考えを客観的に見ること

(ミスや不備を冷静に捉え改善するのに悩む)

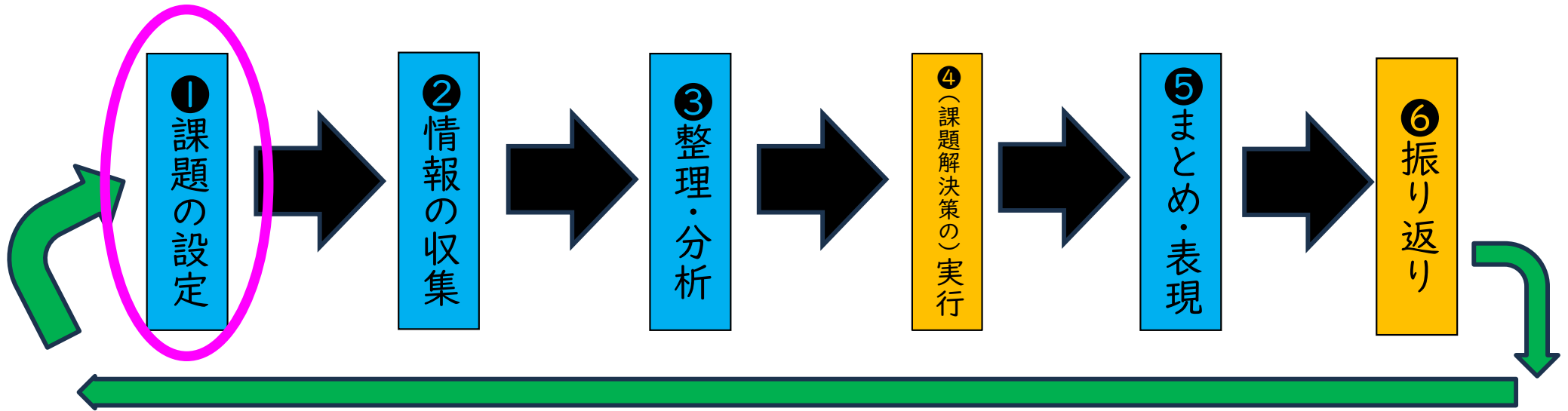
悩みごと(4) 全体のまとめや構造の整理の難しさ

(各プロセスを整理しまとめるのに悩む)

悩みごと(5) 反省や改善点の多さ, 良い点の見つけにくさ

(改善点に目が行き長所の発見に悩む)

各プロセスでのつまずき❶（課題の設定）



悩みごと(1) 課題の発見・特定

(適切な課題の発見や特定に悩む)

悩みごと(2) 進路・将来との関連付け

(進路と課題設定の関連付けに悩む)

悩みごと(3) 具体的なテーマや分野の選択

(特定のテーマや分野への絞り込みに悩む)

悩みごと(4) 興味・関心と課題の結びつけ

(夢や目標が不明確だと関心分野の発見が困難で悩む)

悩みごと(5) 実行可能な解決策の考案

(大規模の課題を小さくて具体的な課題にするのに悩む)

①「課題の設定」での生徒の悩み事

(2) 進路・将来との関連付け(進路と課題設定の関連づけ)



- 自分の進路と課題をどう関連付けるかに悩む生徒が多くいる。
例)「進路に見合う課題がなかなか見つからない」
「進路に関する課題が多くあり、どれを設定すべきか悩んだ」

【生徒の乗り越える工夫】

生徒の乗り越え方の事例を知ること
で生徒へのアドバイスに活用できる

① 進路や将来を前提にテーマ選択

- 「課題を設定してから自分と関連付けるのは条件がかなり絞られてしまうので、「自分の目指したいことは何か?生き方とは?」ということを考えてから、課題を設定した」
- 「自分の進路と世の中にある課題を照らし合わせながら少しずつ結びつきを強めていった」

② 将来の職業と課題を結びつける

- 「将来就きたい職業の問題を調べその中で自分が体験して解決したいと思った問題を選ぶ」
- 「考えを紙に書き頭を整理し、どれが1番解決すべき課題かを視覚的に分かりやすくした」

③ 知識の収集と分析

- 「たくさん調べた」「ネットや他者の課題設定を参考にした」「多くの文献を読み、分野の中で共通で問題しされている点を探した」「自分の身近な問題を発見した」

④ 身の回りの状況を活用

- 「身近な風景を思い浮かべた。妊婦さんが大変なことは自分ならどうかと置き換えて考えた」
- 「去年の探究の情報を整理し、気づきを得て、図書館を利用して解決策を考えようと思った」

⑤ プロセスの変更や再評価

- 「グループ内でどんな課題を設定しどんな案を出していくかを話し合った」
- 「関心を持てる課題が見つからなくて、進路に絞ることなく、課題設定自体を変更した」

4章（「課題の設定」のポイント）

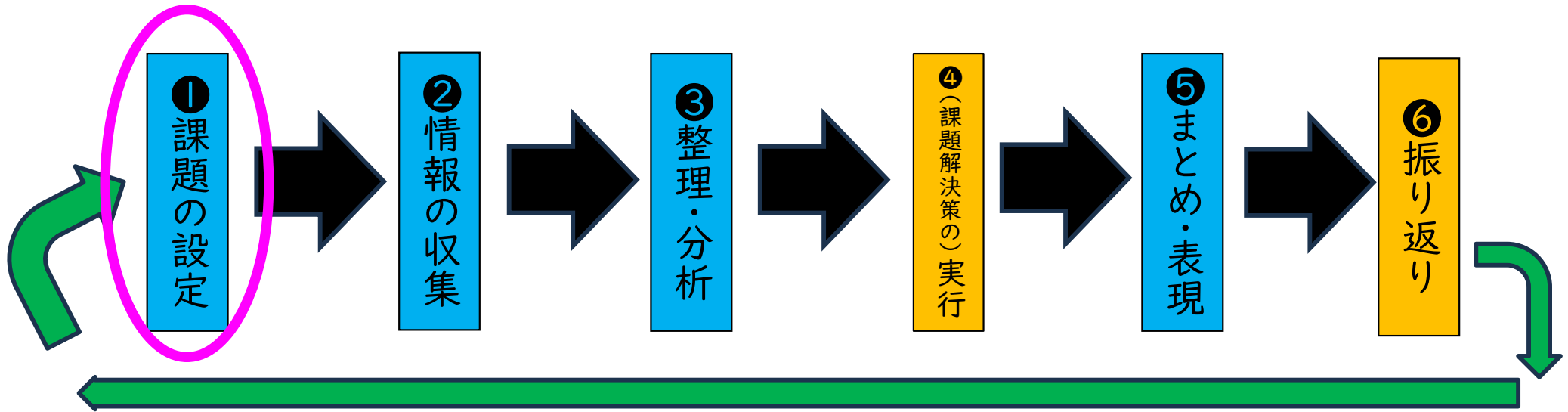
- 1 「課題の設定」のポイント
・ポイントと活動例

- 2 「課題の設定」で
「教師が困ること」と「解決テクニック」

- 3 「課題の設定」で
「生徒の悩み事」と「乗り越え方」



各プロセスで教師が困ること ①（課題の設定）



困ること① 課題をどう適切に設定すればいいかわからない

困ること② 自分の興味や関心がはっきりしない

困ること③ 設定した課題が広すぎて具体的でない

困ること④ 生徒が興味・関心を示さない

困ること⑤ 使える資源や時間に制約がある

①「課題の設定」での教師の指導上の困りごと
困ること① 課題をどう適切に設定すればいいかわからない



【解決テクニック】

- ①「問題」と「課題」の違いを知り、課題設定に活用する
- ②課題の設定前に、「調べ学習」を促す。
- ③3つの条件に当てはまるものを考えてみる。
 - 自分が関心があり(=こだわられる)、
 - 時間内に取り組み(=実現可能)、
 - 社会が求めていること(=SDGsなど)

それぞれの具体は
書籍を参照

本書の特徴



10章 (高度化・自律化を目指した探究学習のアップデート)

- 1 地域・企業と連携して「**社会の創り手**」を育む
- 2 **解決策への飛びつきは避けよう**
—問題の「**本質的な原因**」が鍵
- 3 社会で役立つ**持続可能な解決策**を考える
2つのヒント
- 4 **探究を高度化・自律化するための具体例**
—持続可能な探究な探究の工夫—
- 5 **入門期にオススメの活動**
—ケースメソッドで商店街の活性化問題に挑む
- 6 探究に3年間取り組んだ生徒が感じた
「**探究の良さ**」と「**課題**」とは？



能

力」

探究学習の疑問点




探究学習をやりすぎず
持続的にするには？

△高度な内容で相当時間がかかり、先生も生徒も疲弊する
やりすぎ探究（大変過ぎて続かない）

○（過度な負担でなく）取り組みやすい持続可能な探究

持続可能な探究のイメージとは？

特徴・要素	やりすぎ探究 	持続可能な探究 	放任探究 
目的	学習内容の深掘りを極端に追求		生徒に極めて高い自由度を与え、自己主導での学習を促進
教員の役割	極めて積極的で、細かい指導と厳格な管理		最小限の介入にとどめ、生徒の自由な探究を任せる
生徒の役割	与えられた課題や指示に従って高度な成果を追求		自分で学習の方向性とペースを決定し、自己主導で探究
時間管理	時間をかけて詳細にわたる探究が求められることも		生徒による自主的な時間配分中心で、教員の指示は最小限
成果の評価	成果の質と量に重点を置き、高い基準で厳格に評価		生徒自身の反省や自己評価が主で、形式的な評価は少ない
問題点	生徒と教員の双方に過度なストレスと疲弊を引き起こす可能性		放任が過ぎると、生徒が目標を見失い、学習効果が低下する可能性

持続可能な探究にする5つのポイント

①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



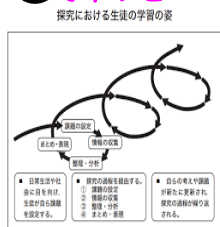
・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)

B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)

C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



A) 発表までのスケジュールの事前共有

B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

持続可能な探究にする5つのポイント

①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)

B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)

C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



A) 発表までのスケジュールの事前共有

B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

①興味ベースのテーマ・課題選択

C「課題設定お助けシート」

課題設定に
苦勞する生徒
は多い



上山晋平『高校教師のための「探究学習」ガイドブック』(明治図書) p.64

探究の進め方で迷っている人へ（「課題設定お助けシート」）

探究で悩んでいる人は、(1)～(6)の順番に 探究を進めてみてください。

(1) 自分の「興味・関心」と「希望進路」に関係する分野を書き出しましょう。

①「探究は自分の興味・関心分野で」という考えもありますが、さらに大学進学のことまで考えると、「自分の希望進路」にも関係した探究をすると、大学入学前にその分野に詳しくなり、情熱も生まれます。

②希望進路が未定の人でも、少しでも関心がありそうな分野（進路一覧表など）を記入してみましょう。

希望進路：

(2) その分野で問題になっていることを調査して書き出しましょう。

①インターネットや図書館の本などを使って調べれば、その分野における問題点は数多く出てきます。

問題点(たくさん)：

(3) 上で挙げた多くの問題点の中から、自分が特に関心のあるもの、解決したいことを選びましょう。

①その問題が「SDGs」とどう関連しているかも考えてみましょう。

*「全ての問題は SDGs 17 目標のどれかと関連している」とわれています。

(4) 次の観点を参考に、課題(問題を解決するアプローチ)を考えましょう。(参考文献あり)

①個人的な関心事であり、かつ社会的に意味がある課題か。(SDGs と関連すれば大丈夫)

②期限内に答えの出る「検証や反証が可能な」課題か。

例) 「神は存在するか?」「人生に生きる意味はあるか?」の問いは検証や反証が難しい。

③大きな課題は、「小さく」、「具体的な課題」にサイズダウンしているか。

例) 「環境問題を解決するには?」「平和な社会を生み出すには?」は、大きくて1つの研究での問題解決はプロでも難しい。調べ学習に終わり、常識的な提案で終わりがち。 →課題のサイズを小さく絞り、具体的にする。例) (6) 参照: 環境問題 → 学校机の雑巾

④できるだけ How を使う問いにしましょう。(What だけで終わらない。Why も大切)

【探究課題の設定で苦勞する場合のヒント】

探究課題の条件は、「自分の興味・関心」、「SDGs(社会的な課題)」と「自分の進路希望」の重なった部分にする。

①自分の興味・関心のあるものや分野を書き出す。それらに基づいて課題の設定を行う。

②SDGs について学ぶ(探究課題に SDGs を取り入れると、より社会的に意義のあるテーマを選択できる)

③希望進路分野を書き出す(探究課題が将来の進路やキャリアにつながるものになる)。

例) 医療系を目指している生徒は、医療分野に関連する課題を探究する。

④探究課題を設定する際に、生徒同士で意見交換する(アイデアの共有や議論を行う場)

【参考文献】 林創『探究の力を育む課題研究』(学事出版)

問題と課題の違いは？

目標 (理想)



問題

(目標と現状の差)



課題

(差を埋めるためにすべきこと)

現状と目標の差・gapに注目する (不便、不満足)

現状



課題設定お助けシート

■ 探究の進め方で迷っている人へ（「探究お助けシート」①）

探究の進め方で迷っている人へ（「課題設定お助けシート」）

探究で悩んでいる人は、(1)～(6)の順番に 探究を進めてみてください。

(1) 自分の「興味・関心」と「希望進路」に関する分野を書き出しましょう。



- ① 「探究は自分の興味・関心分野で」という考えもありますが、さらに大学進学のことまで考えると、「自分の希望進路」にも関係した探究をすると、大学入学前にその分野に詳しくなり、情熱も生まれます。
- ② 希望進路が未定の人も、少しでも関心がありそうな分野（進路一覧表など）を記入してみましょう。

希望進路:

(2) その分野で問題になっていることを調査して書き出しましょう。



- ① インターネットや図書館の本などを使って調べれば、その分野における問題点は数多く出てきます。
- 問題点(たくさん):

(3) 上で挙げた多くの問題点の中から、自分が特に関心のあるもの、解決したいことを選びましょう。



- ① その問題が「SDGs」とどう関連しているかも考えてみましょう。
- *「全ての問題は SDGs 17 目標のどれかと関連している」とわれています。



課題設定お助けシート

■ 探究の進め方で迷っている人へ（「探究お助けシート」②）

(4) 次の観点を参考に、課題（問題を解決するアプローチ）を考えましょう。（参考文献アより）

✓ ① 個人的な関心事であり、かつ 社会的に意味がある課題か。（SDGsと関連すれば大丈夫）



✓ ② 期限内に答えの出る「検証や反証が可能な」課題か。

例) 「神は存在するか?」「人生に生きる意味はあるか?」の問いは検証や反証が難しい。

✓ ③ 大きな課題は、「小さく」、「具体的な課題」にサイズダウンしているか。

例) 「環境問題を解決するには?」「平和な社会を生み出すには?」は、大きくて1つの研究での問題解決はプロでも難しい。調べ学習に終わり、常識的な提案で終わりがち。 → 課題のサイズを小さく絞り、具体的にする。例) (6) 参照: 環境問題 → 学校机の雑巾

✓ ④ できるだけ How を使う問いにしましょう。（What だけで終わらない。Why も大切）

探究を持続可能にする5つのポイント

①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)

B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)

C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



A) 発表までのスケジュールの事前共有

B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

② 探究プロセスの見える化（冊子の詳細版）

「年間見通し」「最終成果物」「各授業ですること」把握+会議の削減

*6年でもこの冊子を使用します。適切に保管しておくこと、これを読んで、今から課題研究の4つの取組を開始しましょう。

【重要・要保管】 6年探究「課題研究」に向けて(ガイダンス)
～6年の「課題研究」には、5年の今から取組を開始します～

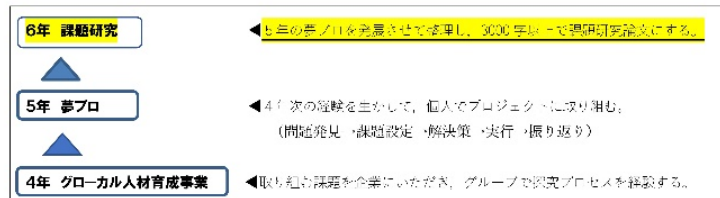
教育研究部

☑この「課題研究ガイダンス」のポイント(まず把握しよう)

- ①6年の探究は「課題研究」に取り組む。6年の課題研究は、5年の夢プロを「深掘り」したものである。
(論文を読んでデータを収集する、実践する、全員PPTで発表する、PCで3000字以上執筆する)
-6年で行う「課題研究」はできるだけ「大学での学び」に近い。
- ②しかし6年の課題研究は6月に発表など、取組期間が極めて短い。(あと3か月しかない・・・)
- ③そこで、5年の今(2～3月)からすぐに上記「4つのこと」に取り組み始める。(詳細はこの冊子参照)
- ④ただし、5年の夢プロの内容が自分の進路と異なっていない人は、自分の進路に関することにトライすること。
向後でも小論文でも志望理由でも「高校時代の探究で進路に関して何をしたらか」答えられるようにする。
- ⑤特に注目して活用してほしいのは p.3 (4つの確認)、p.5～7 (具体的方法)、p.13 (計画表) です。

1 福山高校(3年間)の探究イメージ

【福山中・高の4～6年「総合的な探究の時間」の取組イメージ図】を見てください。

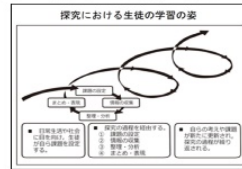


【ポイント】

- ①6年「課題研究」では、5年の「夢プロ」をもとに、さらに深くで文章化する「課題研究」に取り組めます。
- ②「探究」と「課題研究」という用語は似ています。以下で言葉の整理を通して理解をしておきましょう。

【言葉の整理】

①探究的な学び＝課題の設定・情報収集・整理・分析・まとめ・表現を繰り返す学ぶこと。
②課題研究＝探究的な学びを繰り返しながら、研究テーマなどを設定し、研究成果を発表するもの。
(「課題研究メソッド」より)



2 福山高校の課題研究とは？

「課題研究」とは何かについて、もう少しきちんと確認しておきましょう。本校で以下のように捉えています。
自己の「進路」に関連する、「興味・関心」のある分野で問題になっている点をいくつか出して、その中から自分が解決するためにすべきこと(課題)を設定し、調査・研究(実践)・発表(グループ別・学年全体)をすることで、「他者の課題解決」に貢献する。(その際、「SDGs」や「夢プロ」にできるだけ関連させること。)
*5年夢プロで行った「探究」とほぼ同じということがわかるでしょう。6年次の課題研究では、5年の夢プロで新たに生じた(残った)課題の「情報収集(論文)」「実践」「PPT発表」「論述」を目指します。

3 【詳細】「課題研究」の活動の見通し (全10時間)

2時間目からは、各授業ですことは、各自の「進捗度」や「ベース」によって異なります。(春休みに各自ですでに取り組んでいるため)

各自で進める際は、以下に「何をすればよいのか」「何ができたら次のステップに進めるのか」(チェックリスト)を設けているので、参考にしてください。各担当者の「チェック」を受けたら、どんどん先に進んでください。(黒板に各自の進捗を見える化するなどして) *提出物の先取り提出も可能=推奨

■1回目 4月21日 ガイダンス・グループ確定

活動内容の詳細・留意点

【持参物】□課題研究ガイダンス冊子(5年次に配付したもの) □本資料
□探究ノート(5年次) □関連資料(論文など)

【内容】

- (1) 課題研究のポイントの確認(5年「夢プロ」の発展・深化・論文版)
- (2) 春課題の確認(上記を達成するための5項目の進捗確認)
- (3) 希望グループの調査(p.3～4参照・サブリでグループ分け)

*サブリで「希望グループ」「主なSDGs」「探究課題」などを入力する。



■2～6回目 5/19～6/30 グループに分かれて個人別の5つ(6つ)の作業

活動内容の詳細・留意点

【持参物】□課題研究ガイダンス冊子 □本資料 □探究ノート(5年次) □関連資料(論文など)
□「夢プロ」ガイダンス冊子(これがあると探究の進め方が分かりやすい)

【内容】以下の5つの項目の「発展・深化」に取り組む。(+発表リハ)

- *まず(1)「論文調べ」と(2)「実践」を急ぐ。
*(3)「発表資料」、(4)「PPT」、(5)「PC論文」は同時進行可。
*締切日が3つあるので、それらは確実に守って計算して取り組むこと。
(提出物の「先取り提出」は可である)

発表資料: 6月18日/PPT締切: 6月30日/PC論文: 7月14日



(1) 論文調べ(3～5本)

①5年「夢プロ」の内容を発展・深化させるために、「すでに社会に提案されている取組」や「探深課題」に関するデータを集めるために、Google Scholar(グーグルスカラー)で論文を検索する。

②Google Scholarの使い方は、「課題研究ガイダンス冊子」p.7(3)①を参照する。
(5年次に配付したもの)

③Google Scholarを使って、自分の探深課題に関連する論文を検索する。

④プリントアウトするなどして3～5本は論文を読んでポイントを探究ノートに要旨をまとめて発表に活用する。



【☑チェック☑】 *全て☑できたら次に進もう！(授業担当者とも確認すること)

探究を持続可能にする5つのポイント

①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)

B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)

C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



A) 発表までのスケジュールの事前共有

B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

③ 最終成果物のイメージを初期段階で共有

発表資料(A4・1枚)

戦争・平和に関する教育を改善するためにできることは何か。

福山市立福山中・高等学校

1. 関連SDGs・ターゲット・目標達成への効果

SDGs 4 (教育)
ターゲット 4.7

すべての探求者が持続可能な開発を行なうために必要な知識・技術を習得していく。

○平和学習の機会が減ってきている今、若い世代から戦争・平和についての知識を養ってもらうことで平和教育の大切さを考える人が増えるきっかけになる。

2. 探求の目的・理由

現在、戦争を実際に体験した人々の高齢化が進んでいる。また、私たちのような若い世代の戦争・平和に対する知識や興味も下がってきている。高校生の現状を知り、小学生からもっと戦争・平和について考える機会を増やしたいと思い探求を行なった。

3. 現状分析・問題点

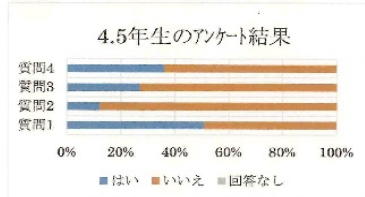
4・5年生を対象に「戦争・平和についての知識、興味」のアンケートを実施した。その結果が以下のグラフである。

質問1: 広島に原爆が落とされた日時(正解率)

質問2: 「核抑止論」を知っているか。

質問3: 平和活動に参加したことがあるか。

質問4: 平和学習を改善すべきだと思うか。



小学生から平和学習を行なってきている人が多いはずだが、この結果を見ると戦争・平和についての知識が不十分であるといえる。また、核抑止論という言葉を知っていても正確な内容を答えられた人はほとんどいなかった。

4. 課題解決に向けた実行・提案

現状を分析するためアンケートを行い、今の平和学習のいい点と改善すべき点を答えてもらった。これまで行ってきた学習は戦争があって原爆が落とされたという事実となぜ戦争をしてはいけないのかなどの道徳的なものについて考えるものが多かった。→しかし、戦争が起こるまでの経緯や戦争が終わった後の平和に関する取り組みはあまり学ぶことができていない。この改善点をふまえて内容を考えた平和学習を提案し、小学生を対象に授業を行う。

授業内容

- ・原子爆弾とは何か。(どのような原理で、どれくらいの威力なのか。)
- ・核兵器がなくならないわけ。(外交のカードになっている、核抑止論のため。)
- ・核抑止論とは何か。(身近な例を用いて。)
- ・これから私たちにできることは何か。



5. 今後の課題

今回、小学生を対象に授業を行なってみて、以下のような課題が存在した。

- 1~2時間では時間が足りずあまり深い内容は学習できない。しかし、長時間になると小学生は集中が続かない。
- 小学4年生には内容が少し難しいため、話し合いがしにくい。
- 私たちが今教えられる内容は薄いため、私たち自身をもっと学習する必要がある。

参考文献

<https://www.asahi.com/articles/ASJ82630SJ82UEHF00M.html>

「原爆のこども知っていますか 深く学ぶためのQ&A」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/peace/nuclearweapon2020.html>「世界の核兵器保有(2020年1月時点)」

ミニ論文(3000字)

文章最後の「改善コメント」も読んで論文を書く際の参考にすること。

6年探究「課題研究」論文(例)

○見出しは「MSゴシック」10.5

○他の文章は「MS明朝」10.5

6年()組()番 名前()

■学部系統番号(18) 学部系統名(共済) 担当()先生

■関連するSDGs 番号(10) 目標(各国内及び各国間の不平等を是正する)

ターゲット(): *該当するターゲット文を記載する

目標達成への効果:

1 探究課題(疑問文で) *必要ならサブテーマも

「アウトサイダーアート」をどう広げるか

～「アウトサイダー・アート」という新しいカテゴリーの定義と存在を、誤解を生まずに広めるには～

2 課題設定の理由(探究の目的や理由)

私が「アウトサイダー・アート」という存在を知ったのは、中学生の時だった。テレビで、福山市にアウトサイダー・アートを扱う美術館があることを知り、アウトサイダー・アートが身近な存在であると実感した。しかし、私の周りの人たちは、アウトサイダー・アートを知らなかった。私は、これを大きな問題だと考える。なぜなら、私は、一見無意味に見えるアート作品にも、大切な意味や伝えたいものが含まれていると思うからだ。そこで私は、「アウトサイダー・アートの実態を調べ、その魅力を提示することで、アウトサイダー・アートが世の中に受け入れられるための一助になれば」と思い、このテーマを設定した。

3 内容 (現状分析・自分の主張・視点・課題解決に向けた実行・提案などを小見出しにして)

(1) アウトサイダー・アートとは

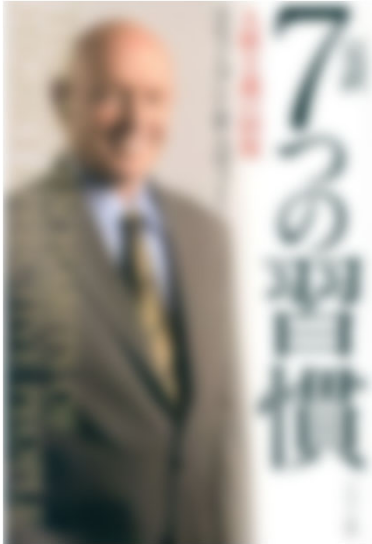
あなたは、「アウトサイダー・アート」という言葉を目にしたことがあるだろうか。アウトサイダー・アートとは、精神患者や幻視家など、正規の美術教育を受けてない独学自修の作り手たちによる作品を指す。フランスの画家ジャン・デュビュッフが、精神疾患患者などが制作した作品群を「アール・ブリュット(生の芸術)」と呼んで紹介したが、アウトサイダー・アートはそれに対する英米語として、1972年イギリス人の美術批評家ロジャー・カーディナルによって作られた造語である。

(2) 日本のアウトサイダー・アートの実態

日本のアウトサイダー・アートの中心となっているのは、障害者の、特に知的障害者の美術である。1950年代には「日本のゴッホ」と呼ばれた山下清に世間の関心が高まり、大衆的人気を博した。山下清は、軽い言語障害、知的障害の後遺症を患う日本の画家であったが、その背景には教育との結びつきが強く示されたため、美術界は長い間アウトサイダー・アートに対して沈黙を示すようになった。

加えて、「アウトサイダー」という言葉のイメージが否定的な意味を持つため、あえてフランス語のアール・ブリュットが用いられることも多い。福祉施設を中心に様々な取り組みが行われてきた背景があるため、アール・ブリュットは「障害者の芸術」という誤認を生んでいる。しかしこれは大きな誤解である。本来は、この言葉自体が「障害者の芸術」という表現を否定するために生まれたものなのである。現在、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、全国各地で障害のある作家を紹介する活動が進められており、こうした誤解はますます

Begin with the end in mind.



『7つの習慣』(スティーブン・R・コヴィー著)
世界4000万部(50言語以上)自己啓発書

- ①主体的であること(Proactivity):自分の選択に責任を持つ。
- ②**目的を持って始めること(Begin with the End in Mind):**
最終的な目標を明確にして行動する。
- ③最優先事項を優先すること(Put First Things First):
重要なことに時間を割く。
- ④Win-Winを考えること(Think Win-Win):
相互に利益をもたらす関係を築く。
- ⑤理解してから理解されること(Seek First to Understand,
Then to Be Understood):効果的なコミュニケーションを行う。
- ⑥シナジーを創出すること(Synergize):
協力してより大きな成果を出す。
- ⑦刃を研ぐこと(Sharpen the Saw):
自己の物理的、精神的、社会的健康を維持する。

- 最終的な目的や目標を明確にし、最終成果を理解して始めることで、効率的かつ効果的に目標達成に向けて進むことができる(という考え)。
- (これを探究指導に応用➡)プロジェクトや課題を始める前に、最終成果物(プレゼンやレポート)を具体的に理解して始めることで、ゴールをより意識して具体的に取り組める(「ゴールの見える化」は説明以上の効果)。

高1,高2の合同発表会(2月)



- オンライン実施
(生徒は各教室で視聴)
- よい取組の共有
次年度の取組イメージが可能

- 1つ年が違うだけであんな発表ができるなんてと思いました。
- 来年度からの探究活動では、何をしようか考えようと思えた
- 来年は自分で課題を見つけていかないといけないので、今のうちから身の回りに目を向けて興味を持ったことは調べるなどして行動に移していこうと思います。
- 5年生の発表では、探究をしようとした経緯や探究方法が書かれてあって、来年は自分も探究をした時にできるだけ詳しく書けるように頑張ろうと思った。

探究を持続可能にする5つのポイント

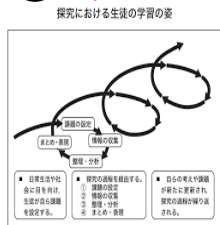
①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

- A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)
- B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)
- C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

- A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

- A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



- A) 発表までのスケジュールの事前共有
- B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

- A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

④プロジェクトマネジメント A) 発表スケジュールの事前共有

1学期)	4月19日:課題の設定シート再提出・Forms入力 5月17日:グループ確定・各自で情報収集/整理・分析 <u>6月7日・21日:進捗状況のクラス発表(1人1分)</u> 7月:夏の探究実行計画立案
夏休み	<u>8月:解決策の実行・まとめ・発表スライド作成</u>
2学期	<u>9月13日:クラス発表(1人2分)</u> <u>11月22日:グループ発表(SDGsグループ内で発表し知見を得る)</u> 12月:振り返り・ブラッシュアップ
3学期	<u>1月10日:学年代表者発表(同級生の発表から刺激を共有する)</u> 1月:夢プロの振り返り(探究プロセス別) 2月:次年度の課題研究に向けて

- 発表が間近になると、活動エンジンが入る生徒もいる(締め切り効果)
- 発表日等のスケジュールは、事前に生徒と共有する(下線が発表日)。

探究を持続可能にする5つのポイント

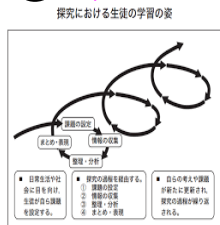
①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

- A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)
- B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)
- C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

- A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

- A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



- A) 発表までのスケジュールの事前共有
- B) チェックリストの共有
- C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

- A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

④プロジェクトマネジメント B) チェックリスト

生徒:チェックリストを見て
探究を進める
(進め方のガイドになる)

教員:生徒の☑を見て
進捗状況を把握する
必要な助言をする

*生徒と先生の現状把握とやり取りに使用します。できる番号から進めましょう。詳細はガイダンス冊子 (Vo.2) を参照。

6年 課題研究 To Do リスト(チェックリスト)

~関門を突破(☑)して次に進もう!~

生徒番号() 名前() グループ() 担当() 先生
探究課題() 関連SDGs番号()

(1) 論文調べ(3~5本)

【☑チェック☑】 *自分で☑する⇒全て☑できたら担当者の確認をもらう⇒次へ	生徒	先生
① 自分の探究課題に関する「論文」を3~5本入手し読み込んだか? (探究ノートに貼る)		
② 論文から、自分の発表資料や論文に使えるデータ(統計資料など)を見つけたか?		
③ 上記の使えるデータを自分の発表資料や論文、PPTに取り入れたか?		
④ 参考文献欄に論文の出自をメモしたか? (著者・論文タイトル・URL)		

(2) 実践

【☑チェック☑】 *自分で☑する⇒全て☑できたら担当者の確認をもらう⇒次へ	生徒	先生
⑤ 「文献調査」「アンケート調査」(オンライン可)をしたか? (5年「夢プロ」を含む)		
⑥ 夢プロの発展・深化として、5年次以上の「実践」をしたか。 (ア<文献調査>で終わらない。できるだけ「エ」<参与調査>「オ」<実験>に近づく)		

(3) 発表資料(A4・1枚)

【☑チェック☑】 *自分で☑する⇒全て☑できたら担当者の確認をもらう⇒次へ	生徒	先生
⑦ 発表資料の最初(一番上)に、「探究課題」(疑問文で!)を、その下に「生徒番号」「名前」「学部系統」「SDGs」を入れたか?		
⑧ 上記モデルを参考に、5年の「夢プロ」で作成した発表資料から「内容」を十分進化・発展させたか? (論文検索で得たデータを入れる、実践を深める、詳細な情報を加える等)		
⑨ 読者を引き付ける「見栄え」になっているか? (レイアウト・色・文字等の工夫)		
⑩ 「参考文献」は正確に記載されているか? (人のアイデアを取り入れた場合は、ネット上の情報でも参考文献に示さなければ「剽窃(ひょうせつ)」となる。*スペースが不十分の場合は、アドレスを省略する等、工夫すること。)		
⑪ 「発表資料」(1枚)をプリントアウトして間違い等がないかを確認したか? (担当者の点検も受けたか?) *「探求」とせず「探究」とする。		
⑫ ★発表資料をデータで担当に6月16日(水)までに提出したか?【期限厳守】 (発表資料は記名付きで、グループや各クラスで製本する)		

(4) PPT

【☑チェック☑】 *自分で☑する⇒全て☑できたら担当者の確認をもらう⇒次へ	生徒	先生
⑬ 5年の「夢プロ」から「内容」を十分進化・発展させたPPTを作ったか? (論文検索で得たデータを入れる、実践を深める、詳細な情報を加える等)		
⑭ 参加者を引き付ける「見栄え」になっているか? (レイアウト・色・文字等の工夫)		
⑮ 「参考文献」は正確に記載されているか? (最後のスライドなどに) (人のアイデアの場合は、ネット情報でも参考文献に示さなければ「剽窃(ひょうせつ)」になる。)		
⑯ PPTの内容を担当者に点検してもらったか?		
⑰ ★PPTデータを6月30日(水)までに担当に提出したか?【期限厳守】 (提出後にどうしても修正したい人は、発表数日前までに担当者に申し出る)		

(5) PC論文(3000字)

【☑チェック☑】 *自分で☑する⇒全て☑できたら担当者の確認をもらう⇒次へ	生徒	先生
⑱ 5年の「夢プロ」から「内容」を十分進化・発展させた論文になっているか? (論文検索で得たデータを入れる、実践を深める、詳細な情報を加える等)		
⑲ 誤字や脱字がないかを確認したか。(プリントアウトしてチェックする)		
⑳ 「参考文献」は正確に記載されているか? (最後など)		
㉑ 文字数をカウントし、それを文章の最後(末尾)に記したか? (カウントのやり方は冊子参照)		
㉒ 担当の先生に読んでもらってコメントを反映させて改善したか?		
㉓ ★論文データ(最終版)を7月14日(水)までに担当に提出したか?【期限厳守】 (提出が遅れて、夏休みに入ってまで論文を書いている状況は避けること)		

(6) 各自で発表リハ

㉔ 各自でリハを行う。(PPTスライドを使い時間を計る、キーワードをスライドに入れておき原稿は読まない)

探究を持続可能にする5つのポイント

①「興味ベース」のテーマ・課題選択に



・興味や好奇心に基づくテーマ➡動機、学びに意味、学習への関与

A) 興味発見シート (関心や学びたいトピックをリストアップ)

B) 課題の自己選択 (複数の課題から自己選択)

C) 課題設定お助けシート D) 問いづくりシート E) 「探究課題設定シート」

②探究プロセスの「見える化」(ステップバイステップガイド)



・探究の具体的なステップを示したガイドの作成 (自立して進める)
(テーマ選定、情報収集、分析、結論、プレゼンの作成・・・)

A) ガイダンス冊子を詳細版に

③「最終成果物のイメージ」を初期段階に共有



・成果物 (プレゼンや論文) の型や具体をイメージできると取り組みやすい

A) イメージ共有の例

④「プロジェクトマネジメント」



A) 発表までのスケジュールの事前共有

B) チェックリストの共有 C) タスクや期限管理

⑤成果物は「絞る」「型を示す」

A) 発表やまとめ資料はA4・1枚 / 論文は3000文字 などに限定・型の提供

負担が大きすぎない「持続可能な探究」にする工夫

⑤ 発表・まとめ資料はA4・1枚に絞る

例① 著作権の理解度、認知度アップには？

著作権の理解度、認知度を上げるにはどうすればよいか

学芸系誌番号 3 人文・教育・人文科学 増刊 上山晋平
SDGs18 平和と公正をすべての人に 3 国策および国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する。
→ 理解、認知度が上げればさらに正しくいきわたる

動機 SNS で無断転載をよく見かけていた。それに対する注意喚起などが聞いているのを見たが、減っているように感じなかった。そこで、よほど認知度が実態どうか、それを改善するために、何ができるかを考えることにした。

著作権とは何か 著作権法によると、著作権とは、「思惟又は感食を創作前に表現したものであって、文字、図画、楽音又は官能の範囲に属するもの」である。この狭義では、特に一般の人が日常生活で触れる範囲、知っておくべき範囲の著作権に注目する。

アンケート①

1 著作権が気になったことがある 2 著作権について調べたことがある

19%? → 10%

→ 10%の人が調べられるようにできれば認知度が上がる

3 どんなときに著作権が気になったか

1 指し、SNS、学校での授業、個人的な制作で使う著作権の認知度アップを望む
2 授業 18%
3 その他 56%
4 制作 10%

4 報道の正確率が 10%

可哀 なぜここまで低いのか 1 実態に意識が低い 2 検閲である

授業例

1 学校での教育を促す方向で！
先行研究 講義法でも、討論法でも、著作権への意識を高める、効果はあまり変わらないことが分かっている。また、著作権法の授業を行った後は、著作権は守れるようになるが、法に触れなくても、コピー、エチケットの観点からは守れない行動が増えたりすることが分かっている。一分かったら安心して楽観に行動しなくなる？ では、どんな内容の授業がよいのだろうか？

可哀 授業に半分の授業時間 先行研究アンケート①、時間をふまえて

1 長く詳細に語ること 2 実証的であること 3 分かりやすいこと
4 簡単な行動を呼びかけられるものであること

それらを踏まえて、もう一度アンケートを行った。

アンケート②

1 著作権に関して、それぞれ関係の事件、歴史、歴史に着目した二つの文章を読んでもらい①面白かったもの②ためになると感じたものを選んでもらう。

アンケート結果

1 面白かったもの 2 ためになると感じたもの

この二つの結果から、実態にあった著作権関連の出来事や、訴訟の証を含めた授業を行うと面白く、(一読を跳ね返さず)かかればなる)ためになる(役立つ)と思われる。著作権の歴史が面白かったのは、目にしたことのない新しい情報だったからだとと思われる。

情報の授業について

日本の高校で、情報の授業が廃れたのは2003年から。2013年には社会と情報、情報の化学に再編され、2022年からは、情報1、情報2にまた再編される予定である。しかし、全国の情報科教師のうち、情報科専任の教師はたった20%、他教科と兼任の先生が50%、そして、残った30%は、免許を持たない非常勤教員担任が臨時雇いの教員である。この状況では、十分な情報の教育、著作権教育が行われているとは言い難い。

解決策

1 新しい授業の提案

- 1 アンケートより、具体的な事例が入った授業
- 2 長く記憶に残り、実践的で分かりやすく、簡単な行動を呼びかける授業
- 3 実用性にも知識が必要で、また、自分と関わりを持ってほしいため、討論法を採用した授業
- 4 授業等の授業で、引用などの知識が必要になることを前提とした授業

→ 上記のことに気を付けて、授業用のワークシートを作成する。

2 出典をこくときのチェックシートを作成

アンケート①で、著作権について、気になったが調べない人が19%いることに注目。著作権について探検的に調べたい！と思う意識の高い人は少ないと思うので、著作権について調べることへのハードルを下げたい

→ 探究ノートに貼ってのけるような小さな紙があれば分かりやすいのでは？

気になったときにすぐ調べられる10%の人が学校で気になっている

→ 繰り返し見るようになるため、内容を覚えやすい一冊の紙の高さになる

発表形式

① 新聞紙(縦向き) ② A4用紙(横向き) ③ A5用紙(横向き) ④ A6用紙(横向き) ⑤ A7用紙(横向き) ⑥ A8用紙(横向き) ⑦ A9用紙(横向き) ⑧ A10用紙(横向き) ⑨ A11用紙(横向き) ⑩ A12用紙(横向き) ⑪ A13用紙(横向き) ⑫ A14用紙(横向き) ⑬ A15用紙(横向き) ⑭ A16用紙(横向き) ⑮ A17用紙(横向き) ⑯ A18用紙(横向き) ⑰ A19用紙(横向き) ⑱ A20用紙(横向き) ⑲ A21用紙(横向き) ⑳ A22用紙(横向き) ㉑ A23用紙(横向き) ㉒ A24用紙(横向き) ㉓ A25用紙(横向き) ㉔ A26用紙(横向き) ㉕ A27用紙(横向き) ㉖ A28用紙(横向き) ㉗ A29用紙(横向き) ㉘ A30用紙(横向き) ㉙ A31用紙(横向き) ㉚ A32用紙(横向き) ㉛ A33用紙(横向き) ㉜ A34用紙(横向き) ㉝ A35用紙(横向き) ㉞ A36用紙(横向き) ㉟ A37用紙(横向き) ㊱ A38用紙(横向き) ㊲ A39用紙(横向き) ㊳ A40用紙(横向き) ㊴ A41用紙(横向き) ㊵ A42用紙(横向き) ㊶ A43用紙(横向き) ㊷ A44用紙(横向き) ㊸ A45用紙(横向き) ㊹ A46用紙(横向き) ㊺ A47用紙(横向き) ㊻ A48用紙(横向き) ㊼ A49用紙(横向き) ㊽ A50用紙(横向き) ㊾ A51用紙(横向き) ㊿ A52用紙(横向き) ㊿ A53用紙(横向き) ㊿ A54用紙(横向き) ㊿ A55用紙(横向き) ㊿ A56用紙(横向き) ㊿ A57用紙(横向き) ㊿ A58用紙(横向き) ㊿ A59用紙(横向き) ㊿ A60用紙(横向き) ㊿ A61用紙(横向き) ㊿ A62用紙(横向き) ㊿ A63用紙(横向き) ㊿ A64用紙(横向き) ㊿ A65用紙(横向き) ㊿ A66用紙(横向き) ㊿ A67用紙(横向き) ㊿ A68用紙(横向き) ㊿ A69用紙(横向き) ㊿ A70用紙(横向き) ㊿ A71用紙(横向き) ㊿ A72用紙(横向き) ㊿ A73用紙(横向き) ㊿ A74用紙(横向き) ㊿ A75用紙(横向き) ㊿ A76用紙(横向き) ㊿ A77用紙(横向き) ㊿ A78用紙(横向き) ㊿ A79用紙(横向き) ㊿ A80用紙(横向き) ㊿ A81用紙(横向き) ㊿ A82用紙(横向き) ㊿ A83用紙(横向き) ㊿ A84用紙(横向き) ㊿ A85用紙(横向き) ㊿ A86用紙(横向き) ㊿ A87用紙(横向き) ㊿ A88用紙(横向き) ㊿ A89用紙(横向き) ㊿ A90用紙(横向き) ㊿ A91用紙(横向き) ㊿ A92用紙(横向き) ㊿ A93用紙(横向き) ㊿ A94用紙(横向き) ㊿ A95用紙(横向き) ㊿ A96用紙(横向き) ㊿ A97用紙(横向き) ㊿ A98用紙(横向き) ㊿ A99用紙(横向き) ㊿ A100用紙(横向き)

例② 災害時に外国人への対応は？

日本で災害が起こった時に、自治体や施設は在日外国人にどのような対応をすればよいか

3 SDGs11 (住み続けられるまちづくりを)
ターゲット 11.5 (災害による死者数、被害者数、直接的経済損失を減らす)
→ 2030年までに、災害による死者数や被害者数を大幅に削減し直接的経済損失を大幅に減らす
→ 現在、在日外国人への災害時の対応について、今後の取組や課題を考えることで、災害で苦しむ人を一人でも少なくする

4 現状分析-問題点
在日外国人は言語、生活文化などで日本から多くの困難を加え、災害発生時には情報伝達も困難に行われない(認知が低い)
→ 情報伝達を確保するための合同訓練を行い、それをもとにアンケートに協力して下さった学校に手紙を作成した

5 4.1についての検証
現状、在日外国人には災害時の「自衛・救助・共助」があまり伝わっていない(避難所をよく知らない外国人40%)

6 調査内容
① 外国人専門学校の30名に自国の災害の備えに関するアンケートを実施した
② 2034年に外国人の災害に関する調査を実施した
③ 外国人支援金を支援している方から話を伺った

これらのことから...

コロナ禍でできる活動として、広島国際ビジネススクールの先生にアンケートのお礼と災害への備えの啓発を兼ねたポスターを作成した。(日本語・英語の2種類)

実際に作成したポスター
一語左 英・日 左からの2つH・3つH 日本語文
内容
アンケートのお礼とその結果、自分の感想
災害への備えの啓発として、広島県の防災HPやハザードマップ・非常食の紹介

7 (評価)
今回作成したポスターの紹介のみに、外国人の方の不自由が解消され、格差が是正されることはないで、且前も外国人の方(観光客・在住者関係)に日本の災害とそれに対する備えについて、メディア等を組んで発信したり、自治体ごとで自治体の協力を進めたりする必要はある。
【これからについて】

今のご時代では、災害対策のことが私たちが、たくさんの方の方に触れるように情報発信することは難しいと思わす。しかし、コロナウイルスが感染し人が集まることがなくなったのは、外国人参加の「合同避難訓練」を実施したい。これは、自治体の地域に生きている、外国人・中高生・大学生・言語ボランティア・自治体や町内会・消防団などが連携して行う避難訓練である。
多言語防災マニュアルの配布や、心算訓練・AEDの使用方法の練習、避難所立上り訓練、炊き出し訓練など、もしもの時に多くの方が役に立つような活動をするものである。
実際に、避難所が指定されている自治体の国元地区・三条小学校では、東日本大震災発生後の2014年にこのような訓練を行っている。この活動を通して、外国人の防災意識が大きく変化し、防災の大切さや日本の災害時の備えなどについて理解しやすくなり、外国人と日本人の間に相互の文化理解もできると、たくさんの方が参加している。

8 広島国際ビジネススクールの先生50名、受付の方、5年3組、福井国際交流協会 出席 徳光尚文 「日本在住外国人に対する災害意識の調査」 編者：赤松浩二・松谷由志 外国人支援者と災害時多文化共生 伊藤芳郎・副編集者

合同避難訓練の流れ

地域の留学生や在住外国人と日本人住民が避難参加を手がかり
*この際、外国語が話せる大学や言語ボランティアも必要
人命救助の方法、避難所についての基礎知識と協力(アンケートで外国人の、日本の避難所に関する知識が少ないことがわかったため)、避難所でのマナー、災害時の食生活について日本人住民、外国人の在籍者、ボランティアの役割を事前に
*外国人の関心と協力を、ハルムの配布を併せて行う
災害時の対応を知れて、さらに異文化交流もできる!!
みんな HAPPY!!!

まなぼろっさい!!
みんなのHP
「災害時多文化共生 みんなのまなぼろっさい!!」より

早の避難を!!
もしもの時の備えを!!

テンプレを脱したい生徒も（自己選択）

プロセス	初級レベル		上級レベル
課題設定	サポートを受けて、テーマ設定や問いの立案をする。	↔	独自のテーマや問いを設定し深い洞察を持った探究を行う。
情報収集	指定された情報源からの情報収集を行う。	↔	豊富な一次資料や二次資料を収集し、情報の信頼性を評価する。
整理・分析	整理・分析を基本的な方法で行い、簡単な結論を導き出す。	↔	複雑なデータ分析を行い、統計やグラフなどを使って結果を示す。
解決策の実行	提案やアウトプットは指示された基本的なフォーマットに従って行う。	↔	問題解決のために創造的で効果的な提案を行い、独自のアウトプットを作成する。
まとめ・表現	提案やアウトプットを基本的なフォーマットでまとめて表現する。	↔	独自の形式で成果を表現し、広く共有する。
振り返り	探究プロセスについて振り返り、改善点を特定する。	↔	自分の学びや成長について評価し、次のステップを考え、新たな課題を見つける。

*一次資料:オリジナルの情報源。出来事、経験、考えなどを直接伝えるもの(日記、インタビュー、政府文書等)
 二次資料:一次資料を基に解釈や評価がなされた情報源(学術論文、書籍の解説、新聞や雑誌の記事)

本書の特徴

12章（探究学習の日常への応用）

- ① 教科で探究学習を取り入れるコツ
- ② 修学旅行もプチ探究に
（オリジナルガイドブックづくり）
- ③ 身近な場面（校内や生活場面）でも
課題解決を図る生徒に
- ④ 探究学習と進路指導
—2つはどうリンクするのか？

⑤ 教科における探究

（探究学習の日常への応用）



可能

方」

今後の教育で大切な探究。場所は？

英語

芸術

理科

家庭

数学

教科における探究学習
(探究的な教科学習)

情報

公民

保体

地歴

特活

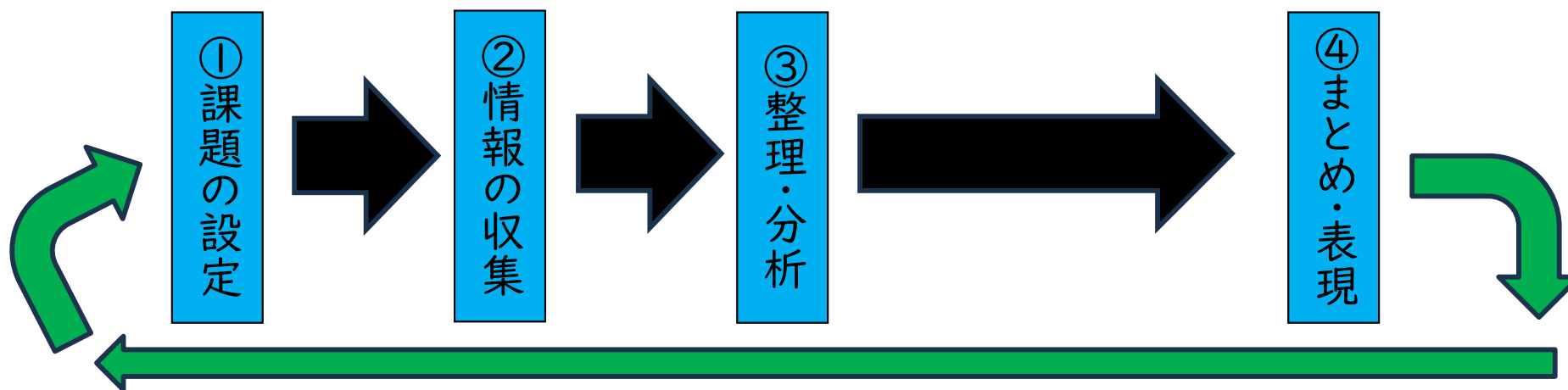
国語

扇の要＝総合的な学習(探究)の時間

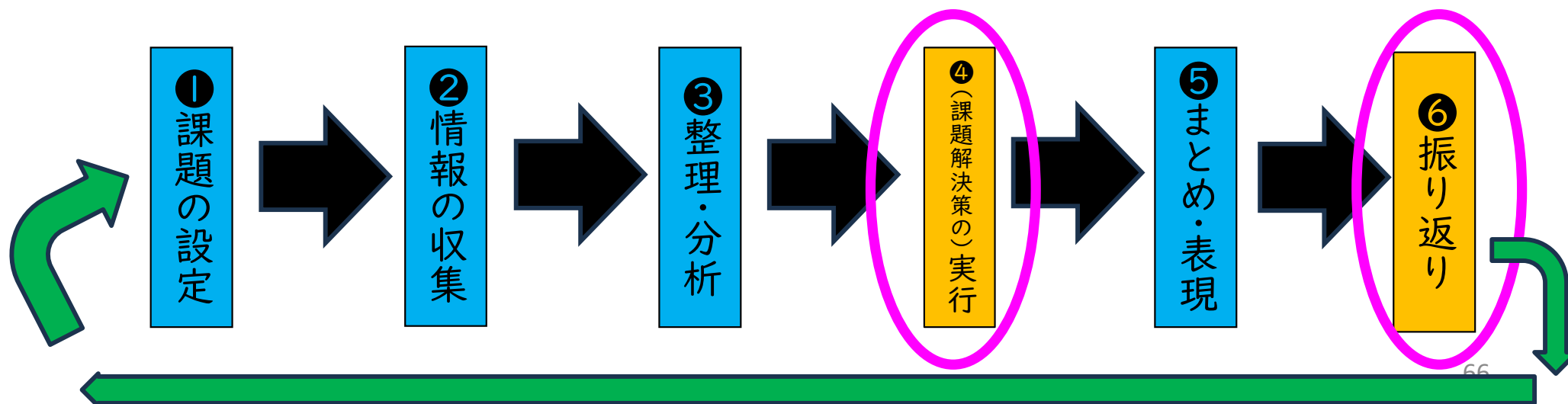
教科に探究プロセスを取り入れる

探究プロセスは、様々なパターンがある。

(1) 文科省による探究プロセス(を図式化したもの)



(2) 本書の探究プロセス(課題解決策の「実行(検証)」と「振り返り」を重視したもの)



探究的な教科学習（ミニプロジェクト）の例

単元	ミニプロジェクトの概要
ユニバーサルデザイン	街を探索し、バリアフリーの改善が必要な場所を撮影し、改善アイデアをプレゼンする。 (社会を変える可能性)
バイオミミクリー	自然からヒントを得た発明を考案し、それがどう役立つかをプレゼンする。 (アイデアが未来を変える可能性)
ジェンダーギャップ	実際の日常生活や社会で感じるジェンダーギャップ(性別格差)と実現可能な解決策をプレゼンする。(平等な社会)
ナッジ	身近な社会や環境問題を解決する小さなナッジを考え、どのような影響を与えるかプレゼンする。(社会変革の一步)

探究的な教科学習

田中(2021)によると、探究的な学習の10の特徴(①~⑩)から3~5つを取り入れるだけで、「調べ学習」が深い「探究的な教科学習」に発展する。

探究的な学習の特徴(田中、2021)

英語教育を事例に

- ① **問題意識**を持ち、**自ら問いを設定**する。
例) 自分の疑問から「世界での英語の使用状況」を探究して発表する。
- ② **自律的な学習**を行う。
例) 生徒が自選したトピックを独学し、学んだ内容をクラスで共有する。
- ③ **課題解決**や**仮説検証**を行う。
例) 英語の記事から環境問題の解決策を考案し、ディスカッションする。
- ④ **主体的な資料の探索と検証**をする。
例) 英語圏の文化の情報を検索して信頼性を評価し、結果を共有する。
- ⑤ **多様な学び方**を学ぶ。
例) 様々な活動を通じて自分に合った英語学習法を身に付ける。
- ⑥ **概念化と具体化の往還**をする。
例) グローバル化(概念)と地元社会の例(具体)を調査・発表する。
- ⑦ **自己や社会と関連づけて価値**づける。
例) 地域での英語の役割を探究し、地域や生活への影響を考察する。
- ⑧ **自己修正、自己評価、学習改善**をする。
例) プレゼン後に自己評価を行い、次の改善点を見つける。
- ⑨ **自己形成、自己成長**を推進する。
例) 将来の目標に必要な英語スキルを特定し、目標達成に取り組む。
- ⑩ **新しい探究課題**を設定する。
例) 授業での学びから次のプロジェクトの新たな研究課題を立案する。



0 Lesson Goals

目標・課題の確認 (Why are we here?)

Why are we here?

What is our **mission** for **Lesson 3**?

(単元全体の課題・ゴールは?)

Transforming

Our City and School

私たちの街と学校を

変える (提案)

11 住み続けられる
まちづくりを

67

L.3の単元末課題（プロジェクト）の内容

【英語版】

Are you excited for the “Transforming Our City and School” project? We want to make our town and school easier for everyone. Let’s share our ideas with interesting presentations and pictures. Our aim is to help create sustainable cities and communities (SDG 11). The best ideas will be sent to Fukuyama City and our school, representing the voices of high school students. This isn't just a task, it's action for real change! This can lead to real changes. It's time to shape the world and make a big difference! We can't wait to hear your amazing ideas to improve our community. Let's work together to make it even better!

【日本語版】

- ① L.3では Transforming Our City and School（町や学校を変える）プロジェクトに取り組んでみましょう！
- ② 街（や学校）に出かけ、改善した方がいい箇所（場所・施設・表示等）を見つけ、皆にとって使いやすくなるアイデアを、画像付きでプレゼンしましょう。
- ③ 優れた提案は、高校生の声として福山市や学校に提出され、現実の改善につながります。自分たちの手で社会に変化を起こしませんか？ SDGs 11（街づくり）に貢献するアイデアを期待しています！

L.3 プロジェクトのステップ例

以下のステップでプロジェクトに取り組むことで、市内の問題を特定し、アイデアを提案するプロセスを効果的に進められます。

探究と教科との連携

①問題の特定 (Problem Identification and Selection)

市内を探索し、改善が必要な個所を見つけ(許可を得て)撮影しましょう。
(家付近でも駅付近でも可。市内が難しければ校内も)

②問題点の説明 (Problem Analysis)

選んだ問題の問題点を考えましょう。
できれば付近の人の声を調査すると説得力が高まります。

③解決策の構想 (Solution Brainstorming)

問題に対する具体的な解決策を考えましょう。
改善案やアイデアをいくつか考え、実現可能なものを選びましょう。

④プレゼンの準備・実施 (Presentation Preparation and Delivery)

解決策を、写真や図表を使い、わかりやすく伝えましょう。
自信を持って発表し、他者に影響を与えることを目指しましょう。

⑤投票と提出 (Voting and Submission)

投票し、優れたアイデアを選びましょう。上位アイデアは福山市や学校関係者に提出され、実際の改善に反映される機会を得ます。

生徒のスライド例 (生徒が発見した市内の問題点)



interrupted

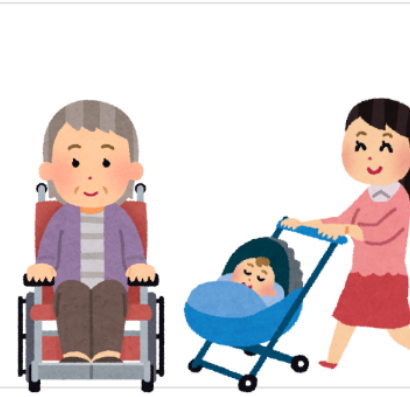
low

wheelchair or stroller tire



fences

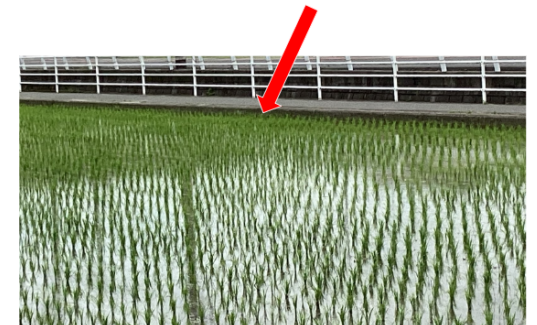
Poor eyesight



People may fall into rice fields.

① narrow

colide!!



生徒のスライド例（生徒が発見した校内の問題点）

For example



Handrail



difficult for old people



生徒の英作文例 (イメージの把握用)

Transforming Our City



I suggest this road needs to change.
This road is near my house.
This road has two bad points.



Bad point 1

rough road
→be injured
difficult for people with wheelchair

⇒ Change it smooth road

First, It is rough.
You might be injured when you are in a hurry.
It is also too difficult for people with wheelchairs.



Bad point 2

holes
→fall and be injured

⇒ Covered with something

Second, it has some holes.
People like children must fall in one and be injured.

Therefore, this road must be changed smoothly.
In addition some holes should be covered with something.

Transforming our city

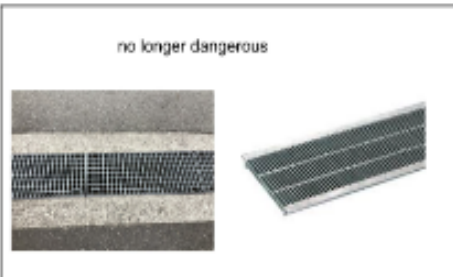


The challenge I found is the U-shaped gutter lid.
Look at the size of this hole. It is large enough to fit a wheelchair or stroller tire.

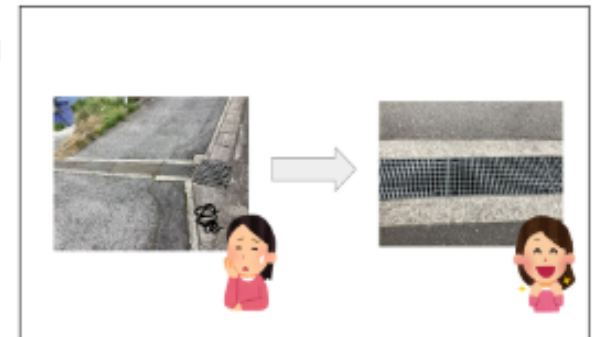
To solve this problem, reduce the size of the hole.



You see things like this all the time in town. The hole became smaller and no longer dangerous.



In the textbook, it was said that business opportunities will be created by responding to challenges. The same thing can be said here. If there is this near a nursery school or park, some people may find it difficult to use. But improvements will bring more users.



This place is near Green Heights 2nd Park.

生徒の英作文（町の変容）



Bingo Akasaka Station has a serious problem. It has only stairs. The reason why this is a problem is that it is not possible for people with a baby in a stroller to go up the stairs. The only way to solve this problem is to install a ramp or an elevator. However these solutions cannot be done immediately, so it is important for us to help the people in need. Just last week I helped a woman with a baby carriage

本書の特徴



- ① 定義の確認で教員の目線合わせが可能
- ② 探究プロセスを捉え直す
- ③ 各プロセスで「困ること」と「乗り越え方」
- ④ 持続可能な探究を目指す
(やりすぎ、放任でなく)
- ⑤ 教科における探究
(探究学習の日常への応用)

教師個々が総探・教科で探究型の授業を進めるガイド
(生徒の力を育むために、担当する全員の先生が持つべきスキル)

(まとめ) 探究は何のため?

私は、探究学習を通じて「課題発見・解決力」を身に付けることが、人生や社会の向上(よりよい状態)につながると信じています。

困りごとに直面した時、本質的な問題を特定し課題を明確化し、解決策を検討し、他者と共にその策を実行する力は、人生や社会を主体的により良くするために必要だからです。

持続可能な社会の
創り手の育成



多くの教員の悩みは共通 そうした悩みや疑問を整理して解決する本

- ▲「探究は担当者が考えるもの。それ以外の人是指導案通りに行くだけ」
- 「生徒の力を育むために、担当する全員の先生が持つべきスキル」



- 1章 探究学習 **ガイダンス**
- 2章 探究学習の **デザイン**
- 3章 探究 **プロセス別のチェックリスト**
- 4章 「**課題の設定**」の指導のポイント
- 5章 「**情報の収集**」の指導のポイント
- 6章 「**整理・分析**」の指導のポイント
- 7章 「**課題解決策の実行**」の指導のポイント
- 8章 「**まとめ・表現**」の指導のポイント
- 9章 「**振り返り**」の指導のポイント
- 10章 **高度化・自律化**を目指した探究学習のアップデート
- 11章 **生徒同士 & 教員同士のチームワーク**のアップデート
- 12章 探究学習の **日常への応用**
- 13章 探究学習の **評価**

教師個々が総探・教科で探究型の授業を進めるガイド